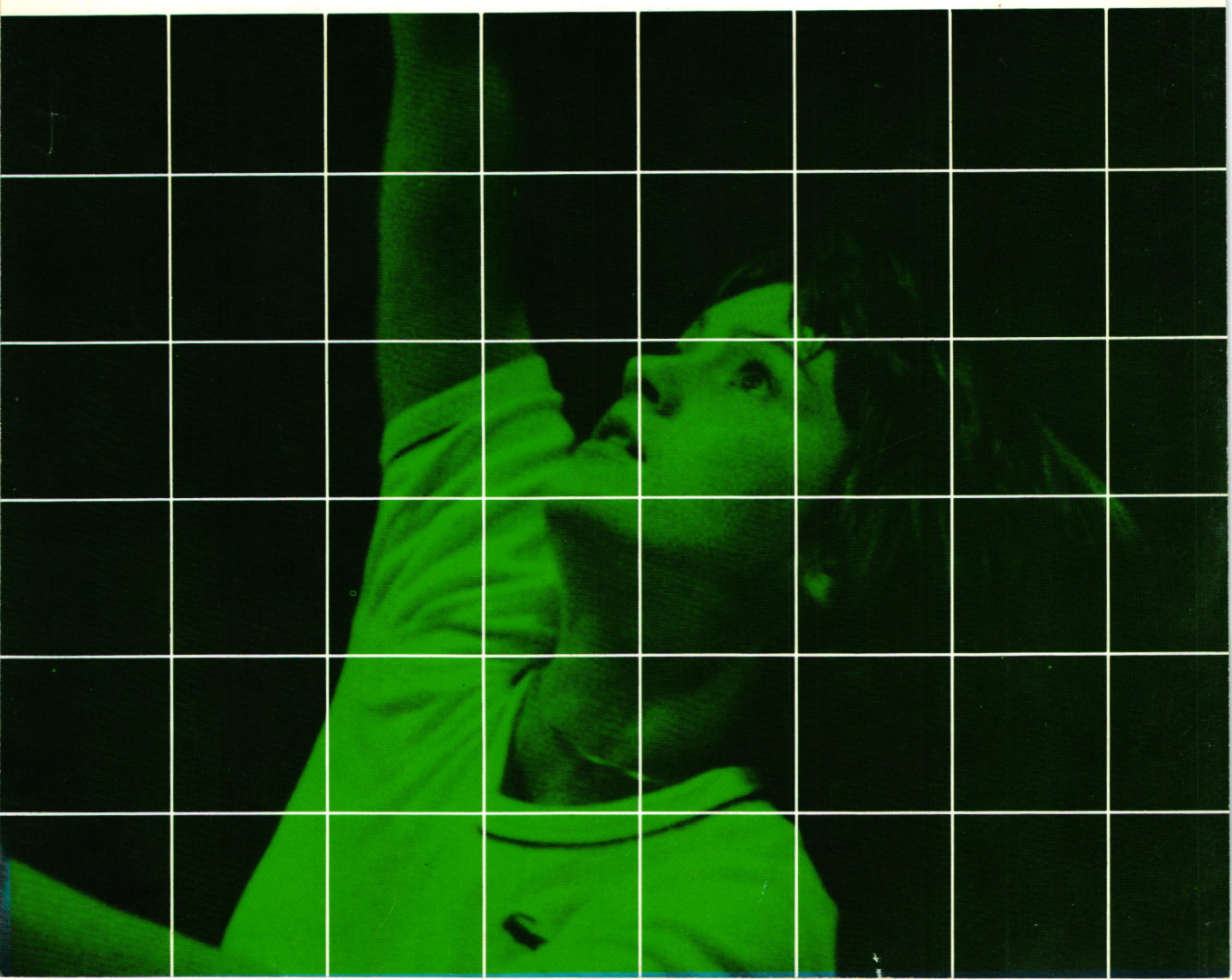
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和53年3月1日発行（毎月1回15日発行通巻第101号）

# バドミントン界

3

日本バドミントン協会　The Badminton World No.101 1978

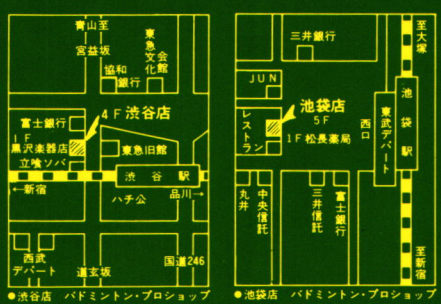


# ラケットおニュー!!
# 意欲も新品。



●年中無休
●営業時間　渋谷・池袋店
AM10：00～PM７：00
横浜店
AM10：00～PM８：00

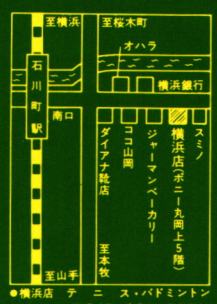
## ラケットショップ元町




●渋谷店　バドミントン・プロショップ
☎03-400-7390




●池袋店　バドミントン・プロショップ
☎03-988-0215




●横浜店　テニス・バドミントン
☎045-651-2020

BADMINTON WORLD

——第７回国際バドミントン競技大会・東京大会——


デルフス敗れる …… 2
キールストロムに栄冠

コーペンの貫禄勝ち …… 5
近藤は若さを暴露

“脅威”４メートル・コンビ …… 7
飯野・土田組、池田・栂野尾組に完勝

“新星”植野・米倉が誕生 …… 9
初コンビで金的を射止める

新・ガッツ小島の体当り実戦教室⑪——小島一平

感涙、デンマークで優勝 …… 12

エツコのバドミントン・ライフ⑨——栂野尾悦子

全英のメンバーにもれ、国際学生でがんばる …… 14

われらのクラブ⑩——ダッシング・クラブ

ジュニア部員の飛躍が楽しみ …… 16

分析シリーズ②——関根義雄／平川卓弘

フライトの種類と速さ …… 34

緊急報告——宮永武司

世界を二分するな …… 42

◎大会日程など決まる／38
◎栂野尾・植野両選手に功労賞／40
◎第６回全日本実業団・学生選抜大会団体戦／44
◎各地の記録／45
◎編集室から／48

☆グラフ——国際大会・個人戦から



◇表紙デザイン・構成＝野間デザイン室／表紙・本文写真＝赤星三樹（使用カメラ・レンズ、アサヒペンタックスMX　SMC-P-M　50／1.4）／現像処理＝アクト・スタジオ、樋口哲也
◇今月の表紙＝国際大会で華麗なプレーを見せたリーン・コーペン選手（デンマーク）

●男子シングルス

# デルフス敗れる

## キールストロムに栄冠

ヨーロッパ選手を迎えて行なわれる、国際バドミントン競技大会も第7回を迎え、京都、新潟、岐阜、熊本、福岡と日本各地を転戦した後、1月28・29日東京・代々木第2体育館に於て最終戦が開かれた。

各地で行なわれた大会が、団体戦であったためか、いま一つ真剣味に欠けたヨーロッパ選手も、ここ東京では全選手がトーナメントによる個人優勝がかかり、さすがに闘志をむき出しにして引き締ったプレーを見せてくれた。

男子シングルスは、「世界一バドミントンの強い男」の異名をとるフレミング・デルフス（デンマーク）が決勝で、日本の銭谷欽治（河崎ラケット）をファイナルの末下して勝ちあがったトーマス・キールストロム（スウェーデン）に敗れるという波乱に始まり、女子ダブルスでは、共に今春短大を卒業する、弱冠20歳の植野恵美子（四条畷学園女子短大）、米倉よし子（日本女子体育短大）組が1・2回戦はファイナルゲームにまでもつれこんだものの、決勝では今や女子シングルスの実力は世界NO1といわれるリーン・コーペン（デンマーク）、19歳の期待の大物新人、インゲ・ボルグストローム（デンマーク）組を、ストレートで下し優勝という、大波乱の連続であった。

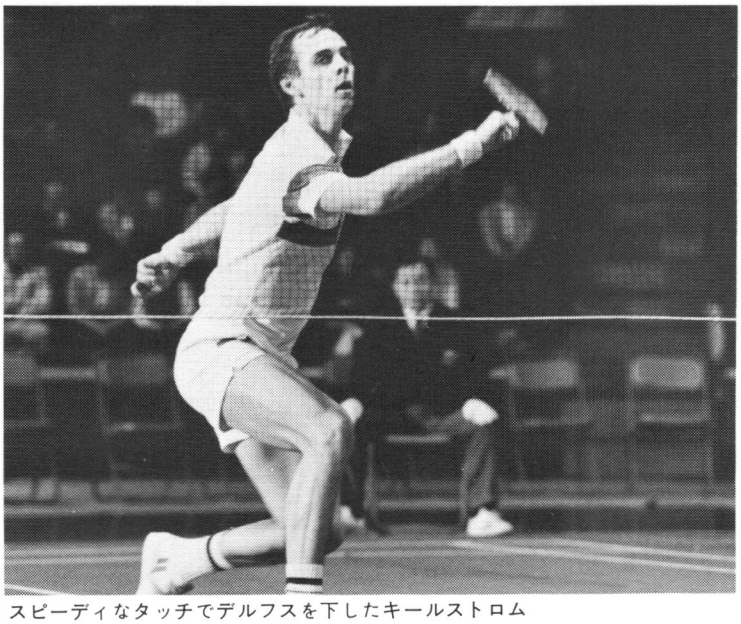
男子ダブルスは、2m近い身長にものを言わせて、まったく他を寄せつけなかったフレミング・デルフス、ステーン・スコブガード（デンマーク）の完勝。女子シングルスは、リーン・コーペンが、全日本チャンピオン近藤小織（日本女子体育大学）を破り、その実力を改めて証明した。

数あるバドミントン大会の観客の入りは、いま一つといわれているが、今大会ばかりはそれをくつがえすように、連日満員のファンで会場は埋めつくされた。また、ヨーロッパ選手の持つ、独特の明るさ、おおらかさは、対する日本選手ばかりでなく、場内をはなやかな雰囲気に包み込んでいた。

**▽男子シングルス1回戦**

デルフス（D）　2　15—7　15—6　スティーブンス（E）

昨年の来日以後、世界チャンピオンの座を獲得し一段とプレーに幅が出て貫禄を見せるデルフスに対し、英国期待の若手スティーブンスは、終始真剣な眼差しからエネルギッシュなファイトを繰り広げ、1ゲームを先



スピーディなタッチでデルフスを下したキールストロム

取する健闘ぶりを示した。

第1ゲーム、出足からスティーブンスの速攻に手を焼くデルフスは、長いサービス権の移動の後、いったん4—2と抜け出すが、サービス、カット、クリアーのコントロール・ミスが重なって簡単に逆転を許し4—5。

このあたりから攻撃のリズムをつかんだスティーブンスは、まったく攻撃を仕掛けないデルフスのボディへ、バックサイドへスマッシュを集め、着々とポイントして9—4、12—6と勢いに乗る。

デルフスも、1ゲームを投げた形でワンサイドのまま終了。

1ゲームの奮闘で真っ赤に顔を紅潮させたスティーブンスは、スマッシュ、そしてスマッシュに次ぐネット前のラッシングを決めて、第2ゲームも快調なスタート。

しかし、前半やや無理をして攻めすぎた感のスティーブンスが、5—2とリードしてから焦りが見えるのに対し、満を持していたデルフスの深く正確なクリアーを主体とした反撃が開始される。

2—5から一気に11—5までを連取したデルフスは、まだまだ余裕を残す軽いフットワークで、若手に胸を貸す横綱の風格十分に、勝負をファイナルへと持ち込む。

第3ゲームになると、クリアーの正確さが歴然と出てくる。デルフスが6—0とリードするまでに、スティーブンスはハイバックに始まりクリアーミスが4本。

中盤になって、残る体力をふりしぼったスティーブンスが、再度スマッシュを連発して追いかけるが6—7までがやっと。完全に体力の尽きるのを待ったデルフスは、ここで彼本来とも思えるスマッシュ、フォローに〝決め球〟の威力があるスピンの効いたヘアピンを繰り出し、9—6、12—6とスティーブンスを突き離し、見事に終盤を締めくくった。

敗れたとはいえ、体力の続く限り攻勢に出たスティーブンスの前向きな姿勢は、やや太りやすい体質であろうことを克服すれば、近い将来英国の第一人者の可能性を思わせるに十分だった。

**▽同1回戦**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| キールストロム | 2 | 15—10 | 11—15 | |
| | 1 | | | 銭谷 |
| (S) | | 15—10 | | |

〝日本の銭谷〟が対デルフス戦の切符を手にするか、期待のかかった一番だったが、対するキールストロムも今やスウェーデンのトップを争う実力者。試合は予断を許さぬ白熱したゲームになった。

まず銭谷が幸先よく、クロススマッシュをフォアから送って2—0とリードするが、それから互いにけん制するようにクリアーとカットの探り合いが続く。

8度のサービスオーバーの後、キールストロムが攻撃体勢にはいり今度は4—3とリード。銭谷も5—4と逆転、が、すぐに5—6と挽回され文字通りシーソーゲーム。

しかし銭谷は、彼には珍しいジャンプ・スマッシュを駆使する気迫を見せ、攻撃に徹して9—6、11—6、13—8と完全に主導権を握る。

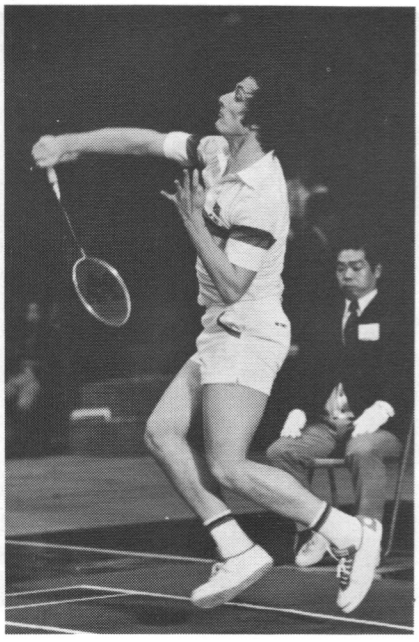
キールストロムはこの攻撃をネットへ逃げるが、銭谷のネット前の処理が冴えて追撃を断った。

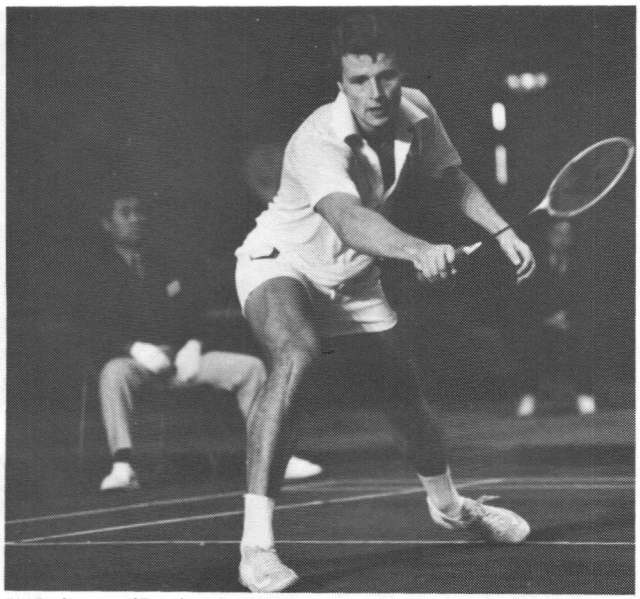
第2ゲームに入るとキールストロムは、サービスをショートサービスに切り替え、銭谷の攻撃を防ぐ作戦。

これが見事に成功して4—1、6—3、9—3とリズムを取り戻す。必死に追いつこうとするが、銭谷にネットミスが重なり、点差は開くばかり。

銭谷はゲームポイントを握られた5—14から、再びジャンプ・スマッシュを混じえた攻めを

デルフスを猛烈なスマッシュを浴びせたスティーブンス





散慣プレーが顔を出したデルフス

展開し、4度ゲームポイントをしのぐ間に10—14まで追い上げるが、フォアからのクロススマッシュを決められてタイに持ち込まれる。

第2ゲーム後半、猛烈に追い上げたせいか、銭谷はファイナルになると動きが重い。

キールストロムはここでも、ショートサービスからダブルスプレーヤー特有の、速いタッチのプッシュで先手を奪い、ペースをモノにすると丁寧な配球を四隅へ送り、銭谷を揺さぶりにかかる。

中盤から銭谷の返球が浅くなり、サイドラインを割る。ネット際から両サイド奥へ振られてフットワークを乱し、苦しそうな銭谷の表情。7—8から、キールストロムのドリブンサービスをフレームに当て、体力の消耗とアセリを物語る。

キールストロムは淡々とした冷静な顔つきで、まさにマイペース。ポップアップを待って着実に決め、終始リードを保って銭谷の野望を打ち砕いた。

この後、キールストロムがデルフスに勝ったことを思えば、銭谷の力は十分に世界のトップクラスにランクされようが、日本で行なわれた〝地元の利〟を考えると、ぜがひでも勝ってほしい一戦だった。

**▽同決勝**

キールストロム（S） 2（15—10, 15—13）1 デルフス（D） 9—15

日本選手の決勝進出はならなかったが、このヨーロッパを代表する二人の顔合わせもまた、日本では見られない物珍しさも手伝って、興味ある対戦になった。

スティーブンス戦と同じく、序盤戦はまったく攻めようとしないデルフスは、それでもそつなくポイントを取ることだけはさすがで、気勢をそがれた恰好のキールストロムを尻目にノラリクラリ。

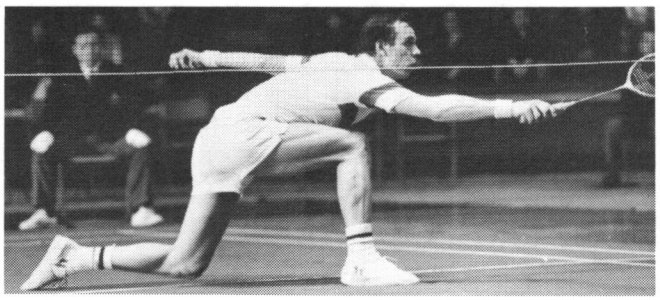
デルフスが第1ゲームに放ったスマッシュが2〜3本。キールストロムが一人で勝手に打ち、勝手に出して一人相撲のうちに1ゲーム終了。

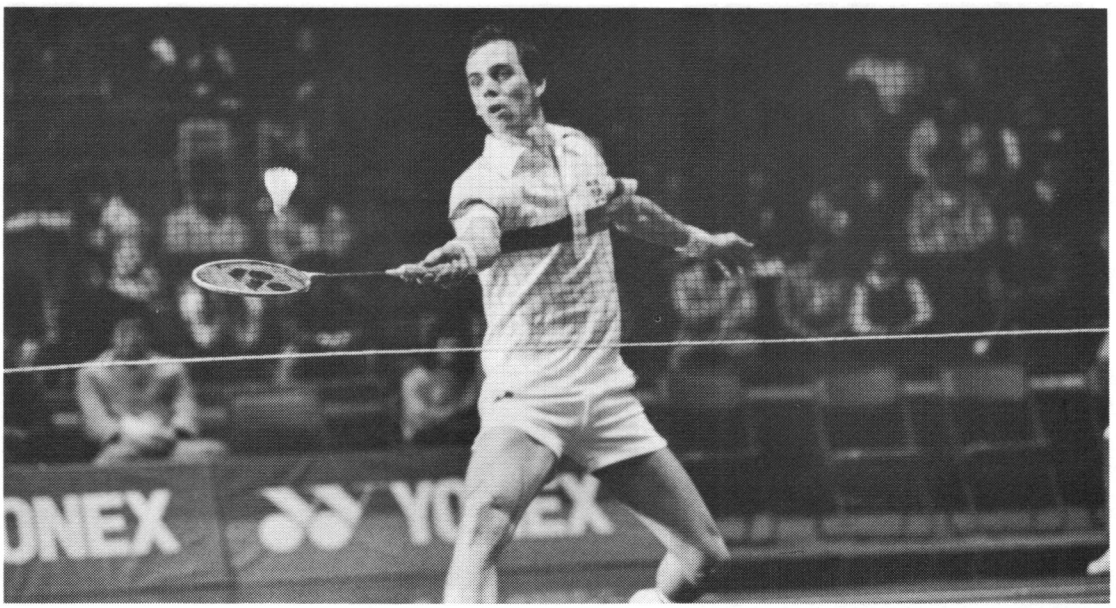
デルフスのショットが速く攻撃的になりだしたのが2ゲーム中盤。6—5からズドン、ズドンと大砲のようなスマッシュを決めて8—5、11—8と勝負あったかに見えたが、ここからまた悪い癖の〝散慢なプレー〟に逆戻りして、キールストロムの反撃を受けた。

ファイナルゲームも、いったんは8—4とリードしながら、どうも気乗りしないのか、キールストロムに話しかけたり、集中力が見られない。

対銭谷同様、沈着なプレーを繰り広げるキールストロムは、終盤ネット前へよく出てプッシュを決め、ヨーロッパで実らなかった〝打倒デルフス〟を果たした。

ゲーム展開はともかくとして、デルフスの強靱な手首、時折り放つスマッシュの決定率の高さは驚異的で、〝真剣〟にプレーしたときの底力は、想像に難くない。






勝負を捨てないプレーに好感がもたれたキールストロム

●女子シングルス

# コーペンの貫禄勝ち

## 近藤は若さを暴露

**▽女子シングルス1回戦**

コーペン（D） 2（11—3 11—3）0 ペリー（E）

国際試合の良いところは、多士済々なプレーが見られることではないだろうか。国内の選手とばかりの試合だけでは、「井の中のかわず」になってしまう。外国の選手には、やはり日本人の持っていないものがあることと、改めて認識させられた。

この試合、ラブオールプレーに始まり、ゲームセットまで両者ともスマッシュと名のつくものは一本もなし。コーペンのシングルスの特徴ともいえる、カットと高いクリアーは、「百聞は一見にしかず」ここまで徹底しているとは思いもよらなかった。

1ゲーム目、お互いにまだ身体が暖まらないのか、ミスが続き、サービスオーバーの応酬。しかしカットの巧さ、またそのカットをきれいにヘアピンで決めるという、さすがに手の長さ、足の長さを生かしたプレー。

コーペンがカットを放ち、ペリーがフェイントのきいたネットを置くというワンパターンの繰り返しに、コーペンがかんしゃくをおこし、何か叫ぶと、その感情表現のおおらかさに、さすがの主審も苦笑いという、肩のほぐれる場面もあった。

しかしその瞬間からコーペンは自らのシングルスを取り戻したようだ。後半はよく動き、よく拾うコーペンに、ペリーのフェイントも、もう一つ決め手にはならず、反対にペリーお得意のヘアピンをコーペンが決めて、1ゲームは、ゲームオーバーとなった。

2ゲーム目も1ゲーム目同様の展開となり、2オールまでの長いサービスオーバーの行き来からコーペンが抜け出すと、簡単に勝負がついてしまった。

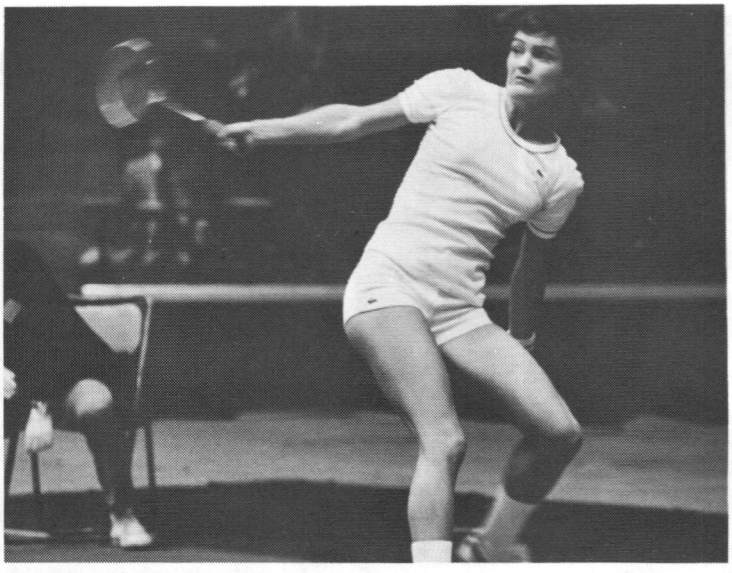
ペリーも決して一つ一つのプレーが雑であるとか、コントロールが悪いとは思えない。しかしその動き、機敏さという点でコーペンが、はるかに上回っていたようだ。またヨーロッパでのコーペンのガンとした強さに、いささかペリーの闘志がついてゆかなかったのかもしれない。

しかし身長の違い、体型の違いは、こうまでシングルス自体を変えてしまうものだろうか。

**▽同1回戦**

近藤 2（11—4 11—4）0 ビューセコム（H）

オランダの女王ビューセコムに、日本の女子シングルス期待の星近藤が、ストレートでしかも、2ゲームとも、4本以下でおさえたのは、なかなかうれしいニュースであった。



〝コーペン式〟バックハンド

近藤は出足から着実に相手のミスや自らの積極的な攻めでポイントをかせぐといった、彼女本来のシングルスを披露してくれた。確かにビューセコムにミスが多く、本調子でなかったことは、周囲の目にも明らかではあったが、それ以上にこの日の近藤の動きはよかった。コンディションも実力のうちとすれば、やはり近藤に軍配があがるのは、当然の結果だろう。

1ゲーム目でペースをつかんだ近藤は、2ゲーム目もその姿勢をくずさず、時折余裕のあるところでみせるフェイントもきれいに決まっていた。

ミスの出ない近藤を見ている時ほど安心なことはない。しかしいったんそれがくずれると、後々まで尾を引いてしまう。若さゆえといってしまうには、もう近藤自身、引くに引けない立場に立ってしまったようだ。常にトップに立つ者には、彼女をめざす多くの選手も、観客も、そしてきっと彼女自身も、厳しさのみを要求するのだろう。

しかしこの試合は、近藤に80点はつけてもよい内容であったのではないだろうか。

**▽同決勝**

コーペン 2 (11—5, 12—10) 0 近藤

今大会では、京都大会に続き、二度目の対戦になった、コーペン対近藤は、我々の「もしかしたら」の期待もむなしく、世界の女王コーペンの強さを、改めてみせつけられた。

ビューセコムとの試合で、この日の近藤のコンディションはまずまずと思えたが、もうまったく有名になってしまった彼女お得意のジャンプスマッシュが2本ともネットにひっかかるということから推して、「勝とう」というよりは、「勝たねば」という気負いがあったのかもしれない。

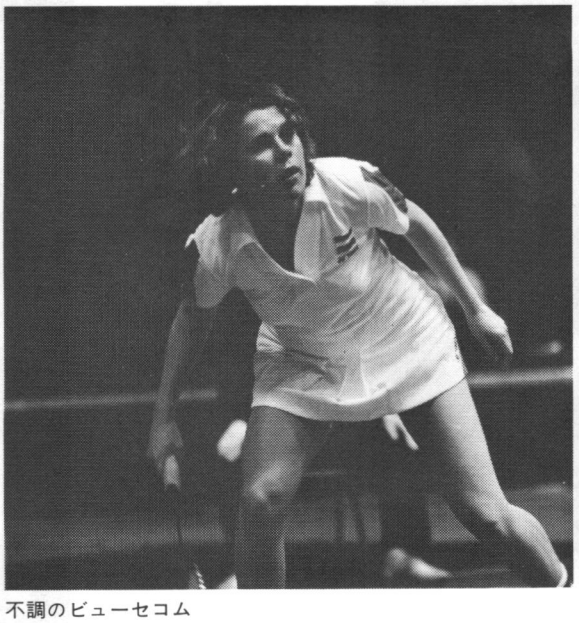
1ゲーム目の出足は、完全に近藤のペースであった。まだ動きの悪いコーペンにくらべ、京都大会の時のように、コーペンの放つカットに対しても、ノータッチはなくなり、長いラリーの末にはコーペンの方が先にしびれをきらすといった様子で近藤が8—3と先攻した。しかしここで近藤にいつもの悪いくせが出てしまった。バックアウトとネットミスを連続させ、それこそ〝あっ〟という間に9—8と今度はコーペンのリード。これでは「コーペン相手によくセッティングにもち込んだ」ではなく、「なぜセッティングになったのか」である。近藤にとっては、取れるはずの第1ゲームを落してしまった。

2ゲーム目も前半は互角に渡りあったが、やはり後半に二人の差が出てしまった。攻撃を決めるのも近藤だが、派手なミスをするのも近藤なのである。コーペンはただよく動き、拾い、独特のカットと、ドリブンクリアー、高いクリアーを使い分けるのが目立つといった程度で、決して力強さがあるわけでも、動きに無駄のないきれいなフットワークをするというわけでもない。

「しかしなぜ彼女は強いのか?」

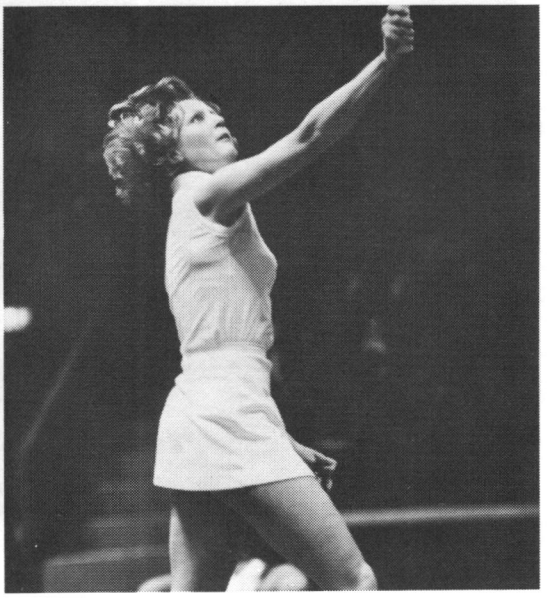
今後、彼女を破ることは、近藤選手だけでなく、日本選手全員の目標となるだろう。





不調のビューセコム

見事なペリーのバックハンド



●男子ダブルス

# "脅威" 4メートル・コンビ

## 飯野・土田組、池田・栂野尾組に完勝

**▽男子ダブルス1回戦**

池田 2(15—12)0 サットン
栂野尾 (15—12) スティー
ブンス
(E)

緻密な作戦とプレーに定評のある池田・栂野尾組と、対照的な荒削り、サットン・スティーブンス組の試合は、得点にも失点にも特徴のよく表れたものになった。

スタートから力で押しまくるイギリスペアは、スマッシュもよく決めるがミスも多く、池田・栂野尾組が6—3、8—4、12—5と常にリード。14—8から強力なスマッシュ攻撃に合い14—12まで迫られたが辛くも1ゲームを先取。

第2ゲームになると、日本ペアにも攻撃の機会が多くなって、スマッシュを打つ場面が続く。池田もいつになく連続スマッシュが見られる。攻められるともろいイギリスペアは、レシーブミスが続発して一方的な試合内容。

6—1、10—5のセーフティーリードのまま14—7のマッチポイントを迎えたが、1ゲーム同様、イギリスペアが奮起して6ポイント連取。

しかし、冷静にミスを待つ池田・栂野尾の前に、サットン・スティーブンスの荒さでは、ここまでがやっとだった。

**▽同1回戦**

デルフス
スコブガード 2(15—8)0 銭谷
(D) (15—7) 中井

最近の成長が著しい銭谷・中井が、これもスウェーデンの成長株デルフス・スコブガードの4メートルダブルスに挑戦、大型選手同士の迫力あるゲームが期待された。しかし、銭谷・中井に凡ミスが多く、6—2と一時はリードしたが、デルフスのスマッシュに、スコブガードのプッシュに簡単に得点を与え、6—13と一挙に形勢を逆転される。

2ゲームになって、やや持ち直した日本ペアは、7オールまで一進一退を続けたが、またしても長身のデンマークペアのスマッシュ、プッシュを浴び7—10。しばらくはサービス権の移動を繰り返して持ちこたえたが、終盤7—11から、一気4ポイントを奪われて完敗に終わった。

**▽同準決勝**

池田 2(15—6)0 キールストロム
栂野尾 (15—3) フローマン
(S)

昨年の来日の折りには全勝だった元全英チャンピオンのキールストロム・フローマン組も、



〝高さ〟にマイッタ

今年は飯野・土田組に連敗して、真価を問われる一戦となった。

しかし、いざふたを開けてみると、やはり集中力に欠ける凡ミスが目立ち、打ってよし、守ってよしの昨年の面影はどこにも見あたらなかった。

池田・栂野尾が堅いレシーブを敷くのに対抗するように、スウェーデンペアが打って出るが思うように決まらない。2発3発と打ち続けると必らずネットへひっかける。特にフローマンに精彩がなく、打ち続ける根気がないような雑な打ち方を見せて自滅。

わずかに2ゲーム目終了間際、2—8から8オールへ、8—11から10—11へ、10—14から13—14へ追い上げたが、池田・栂野尾のコンビの前に、決勝進出はならなかった。

**▽同準決勝**

デルフス
スコブガード（D）
2（15—3）
15—12
0
飯野
土田

速攻を身上とする飯野・土田が、4メートルダブルスをどう打ち破るか、1ゲームが始まってみるとそんな心配をよそに、土田・飯野が快調に飛ばす。

飯野と土田が交代に切れのよいクロススマッシュを決めて7—4とリード。

が、デンマークペアも長い手からのプッシュでサービスをつぶし、8オール。

飯野・土田はそのプッシュに萎縮したのかサービスミスを2本。痛い得点機を逸する。

前衛に調子の出たスコブガードの当りが発揮されると、デンマークペアのポイントが早い。8—9を13—9とし、懸命に食い下がろうとする飯野・土田を、長身の威圧感でねじふせる。

2ゲーム目は、前半の3オールまで互角に試合を進めたが、壁のような長身の2人に飯野・土田の速攻が姿を消し、後半は一方的な内容。

日本人同士ではとても考えられない〝高さ〟の差。現実にその脅威を目のあたりにすると、世界への道はまだまだ厳しいといえそうだ。

**▽同決勝**

デルフス
スコブガード（D）
2（15—2）
15—9
0
池田
栂野尾

ここでも、4メートルダブルスの〝高さ〟が、威力を発揮し続ける。

第1ゲームの前半まで、池田・栂野尾もミスに助けられて5—4とリードするが、エンジンがかかるとデンマークペアの得点能力は抜群。一気にスコブガードのスマッシュを軸に10—5とすると、ラリーを続ける隙を与えない。

一歩も踏み込まなくても、手を伸ばせばそこはネットという、デルフス・スコブガードのサービスレシーブが面白いように決まる。

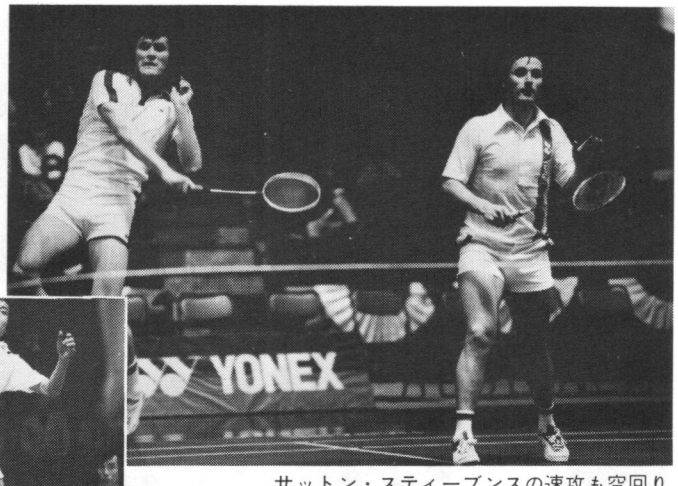
あまりの打点の差に、池田・栂野尾も手の下しようがないといった感じ。

第2ゲームはいっそう調子を上げる外国ペアの攻撃に、まったく手も足も出ないままゲームセット。

日本最高のレシーブ力とコンビを誇る池田・栂野尾が、これほどあっさり負けたことがあっただろうか。

ここ数年のうちでもチャンスと思われる来年の卜杯に向けて、〝打点の差〟を〝得点の差〟にしては、日本の勝利を望むのはむずかしい。





サットン・スティーブンスの速攻も空回り

銭谷・中井組も上位進出できず



●女子ダブルス

# 〝新星〟植野・米倉が誕生

## 初コンビで金的を射止める

**▽女子ダブルス1回戦**

コーペン
ボルグストロム（D）
2
18—17
15—3
0
湯木
近藤

ダブルスを組んで三カ月目という湯木・近藤のペアだが、今が一番むずかしい時期かもしれない。時おり湯木が近藤に対し何か注意を与えてはいるものの、コンビネーションの乱れが目立っていた。

対するコーペン・ボルグストロムは、今回はじめてペアを組んだわけだが、コーペンがコートの3分の2を守り、よくボルグストロムをリードしていた。

1ゲーム目、4回ほどのサービスオーバーの繰り返しから抜け出したコーペン・ボルグストロム組は、湯木・近藤組の息の乱れをついて一挙に11ポイントを連取。湯木・近藤組に挽回のチャンスを与えないままに、1ゲームを取る。

コーペン・ボルグストロム組は、スマッシュによる攻撃が目立ち、コーペンの手の長さを生かした、みごとな前衛ぶりが光っていた。

2ゲーム目前半はお互いにミスが目立ち、サービスオーバーの応酬。中盤は、両方共チャンスを見のがさず、すべてスマッシュという気持ちのよいプレーが続いたが、やはりスマッシュ力ではコーペン・ボルグストロム組が一枚上、という感はまぬがれない。近藤も頑張ってスマッシュを放つ。多少浮きぎみで威力はないが、相手のミスも手伝い得点を重ね、先に13をとった。

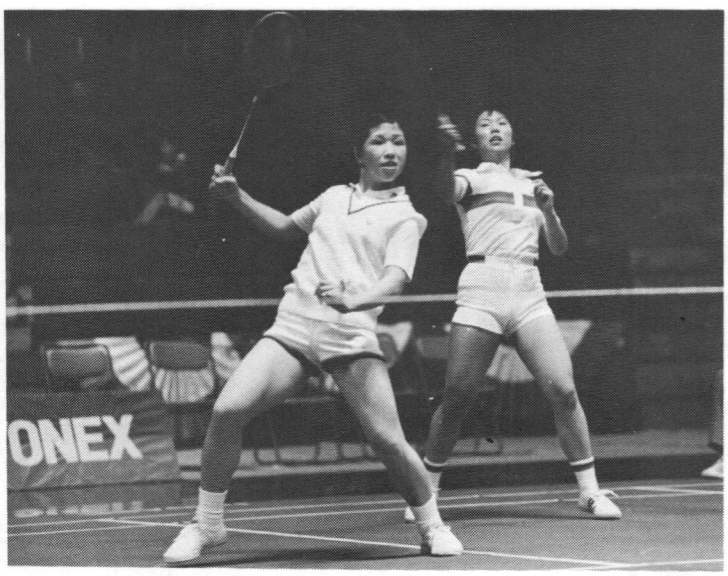
セッティングも4—0と湯木・近藤組がゲームポイントを取ったものの、そこからのコーペン・ボルグストロム組の強気のスマッシュ攻撃がものを言い、一挙に挽回を許し、ゲームオーバーとなった。

湯木の体調不十分は、大会前よりささやかれてはいたが、確かにふだんの湯木にはみられないつまらないミスが目立ったようだ。後輩近藤に、チャンピオンの座はゆずったものの、今年開かれるユーバー杯奪還をめざして、まだまだ活躍してほしいものである。

**▽同1回戦**

植野
米倉
2
15—7
11—15
18—16
1
ペリー
サットン
（E）

どちらもダブルスにおいては、世界でも指折りのペリー・サットン組に対し、今大会初めてペアを組む若手のホープ植野・米倉組がどこまで食いさがるかが見どころと思われたこの一戦だ



初コンビとは思えぬチームワーク

が、結果はさにあらず、2―1とファイナルゲームの末、植野・米倉組がペリー・サットン組をおさえた。

最近、数々の国際大会で活躍した植野はともかく、米倉の経験の浅さが心配されたが、2人の息も合い、試運転は上々。

1ゲーム目、7―2と離され植野・米倉組のあせりからくるミスが目立ったが、中盤からは一進一退のゲーム展開となり、13オールのセッティングへともつれこんだ。ここで米倉のミスが続き、3本を先にとられたが、よく持ち直し、相手のミスも手伝い挽回した。

2ゲーム目にはいると、ペリー・サットン組は、ペリーのスピードのあるスマッシュを中心に攻撃を繰り広げた。これが的を射て植野・米倉組のレシーブミスをさそい、ゲームはファイナルへと持ち込まれた。

ファイナルゲームは、ペリー・サットン組がやや有利と思われたが、植野・米倉組が常にポイントを先行してのゲーム展開となった。これが米倉の気持ちを落ち着けたのか、ミスも減り、後衛からの植野の強打を、前衛でよく処理していた。

ペリー・サットン組は、後半になるとカットミスが連続し、命とりとなった。ミセス同志のペリー・サットン組に対して、弱冠20歳の植野・米倉組の若さに軍配があがった。

**▽同準決勝**

コーペン　ビューセコム
ボルグス　2
15―11　18―14
トロム　0　リダー
(D)　(H)

1ゲーム目出足から、ビューセコムの力強いスマッシュが目立つ。しかしミスも多く、自分のプレーに腹をたて、何度かラケットを床にたたきつけるという場面がみられる。

互いに攻撃的なダブルスを展開し、13オールのセッティングになると、ボルグストロムの時おりみせる勘の良さがここでも光り、すばらしいクロススマッシュが決って、セッティング後半は、ビューセコムのミスが目立ち、最後も彼女のスマッシュミスでゲームオーバーとなり、またしてもラケットを投げ、短気な性格を暴露。

2ゲーム目の初めにも、バックアウトになったシャトルに、ビューセコムがタッチしたか否かで、一時試合が中断。今度はコーペンが気の強いところを見せ、日本人同士の試合では考えられない、感情をむき出しにするという一幕があった。

ゲームはどちらもミスの多い今一つ迫力に欠けたプレーが続き、最後もオランダペアのミスで幕を閉じた。

**▽同準決勝**

植野　2
米倉　1
18―15　15―4　12―15
17　高田　徳田

昨年の全日本社会人、全日本実業団、全日本総合選手権大会の女子複の三冠に輝く徳田・高田のペアを、20歳の植野・米倉が破るとは、誰が予想しただろうか。しかも、この二人はダブルスを組むのは今回が初めて。それぞれに活躍はしていても、はたしてこのペアが成功するか否かは、関係者一同も不安と期待の入り混った気持ちで見守っていたことだろう。

外国人同士の試合の後に行なわれたせいか、この両ダブルスの試合は、いかにも日本人独特といったラリーの長いプレーが展開された。

スタートは共に互角で、ポイントの上からは植野・米倉組が11―6までリードしていたが、場内の一種の期待を裏切るかのごとく、一気に11―13まで追いあげられ、米倉のミスから立ちあがることができないままに、徳田・高田組に逆転を許した。しかし植野・米倉組は、今大会で初めて組んだとは思えないほどうまく攻撃の体勢に入ってお

決勝戦のもよう　米倉チャンスボールを待ち受ける



り、つまらないミスさえなくなれば今後が楽しみという印象を、早くも与えた。

2ゲーム目は、徳田・高田組が、1ゲーム目後半の追い上げとはうらはらに、凡ミスを続け、逆に植野・米倉組が積極的、はつらつな攻撃でポイントを重ね9—0、15—4と一方的にゲームをものにした。米倉は経験が少ないせいか植野にくらべてミスは多いが、角度のあるカットが有効に生かされており、また植野もよく米倉をリードし、時おり大声で「よねー」(米倉の愛称)などと叫ぶなど、初めて組んだながらも同学年らしい雰囲気であった。

ファイナルゲームは、あせりのみえる徳田・高田組がスマッシュを打ちはじめ、7—0とリードして、やはりこれが本来の実力かとも思わせたが、植野・米倉組もあきらめず、じりじりとねばって相手のミスを誘い、9—9にまで追い上げた。このあたりから、高田が弱気なカットミスを続けるなどして、セッティングとなり、やや息の乱れた徳田・高田組と、押せ押せムードの植野・米倉組との一本勝負。まさに今大会のハイライトとも言うべき盛り上がり。観客の全視線が集中している中で、高田がスマッシュミス。同時に飛び上がり、かけよって抱き合う二人に場内一斉の歓声と拍手が送られた。

**▽同決勝**

植野
米倉
2
(15—9 18—13)
0
コーペン
ボルグス
トロム(D)

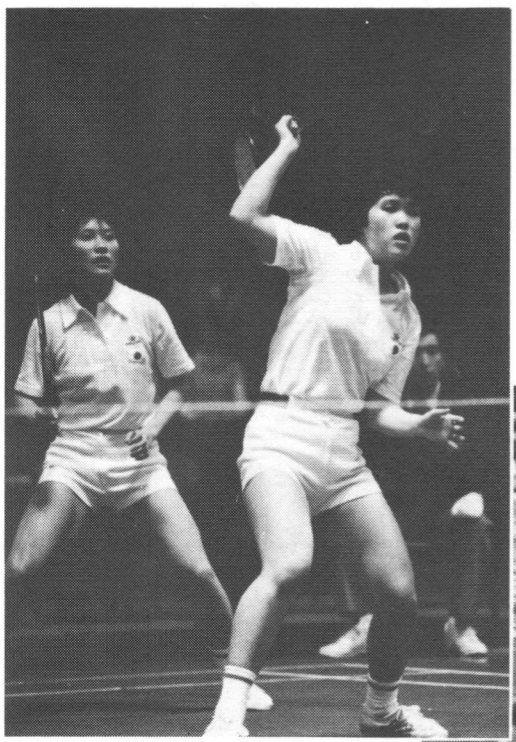
誰もが予想しなかった植野・米倉組と、コーペン・ボルグストロム組の対戦となった。

1ゲーム目立ちあがり、植野・米倉組とも単発のミスが目立ち8—0と離される。中盤に入り徐々に挽回はしたものの、コーペン・ボルグストロムのスマッシュは、米倉に集められ、思うように攻撃ができない状態が続いた。しかしこれまでの2試合で度胸もついたのか、植野・米倉は声を掛け合い、よく粘って挽回の期をねらっていた。9—13からは、相手のミスと二人それぞれのラッキーも手伝うナイスショットで、9ポイント連続して得点をあげ、18—13と1ゲームを辛くも先取した。

2ゲームに入り、植野・米倉組は、コーペンの広い前衛での守りをかわす高いレシーブが成功し、自らの持ち味を生かしたプレーを展開した。植野・米倉は、共に鋭いスマッシュを持っているため、植野が後衛米倉が前衛というだけでなく、オールラウンドなダブルスが可能な点が強味である。

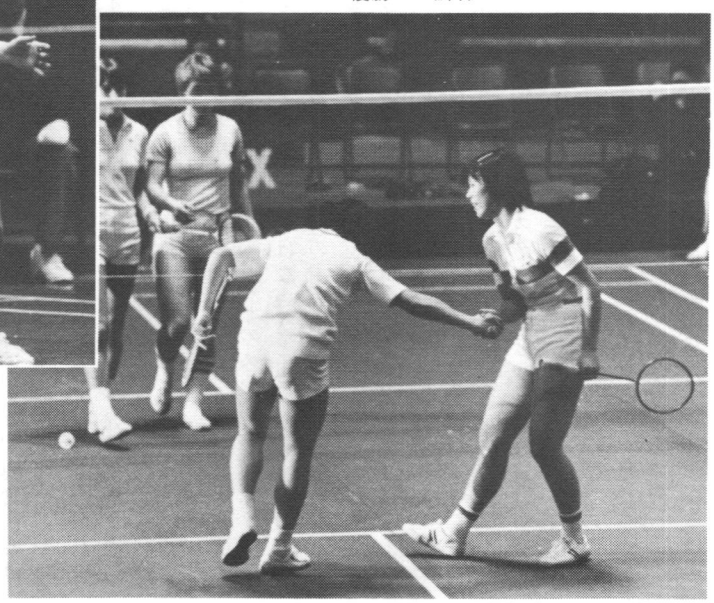
13—5とリードしてからややコーペン・ボルグストロム組に挽回を許したものの、後半は完全に植野・米倉のペースで勝負を決めた。

今大会のヒロイン二人はさっそくカメラの前でインタビューを受けたが、その応答のぎこちなさもまた、若さの表われた新鮮な印象を与えていた。



昨年の全日本三冠の徳田・高田組は思わぬ逆転負け

優勝の一瞬!!



# 新・ガッツ小島の体当り実戦教室



## ⑪小島一平

# 感涙、デンマークで優勝

## ●アイク・ハンとコプスを降す

海外遠征も数多く経験し、海外での生活にも慣れるとともに、多くの選手との対戦で徐徐にではあるが自信がつきはじめる。

とにかく、トッププレーヤーが集う大会で優勝せねば話にならない、と思っていたし、また優勝することにより自信にもつながるし、相手に対しても威かくするというか、緊張させることができるなど、プラスアルファーが生まれてくることは間違いないと考えていた。

残念ながらデンマーク・オープンにはインドネシア勢が不参加であったが、その他のオールメンバーが勢揃いした。

インドネシアのハルトノさえいなければ、優勝できる自信がありチャンスであった。

コペンハーゲンに到着するなり試合までの3日間、連日シャトル打ちは約2時間、トレーニングは3時間、早朝1時間、夕方1時間と走りに走りまくる。最後には体力がモノをいう、バテさえしなければ絶対勝てる。数多くの教訓を生かし、心臓が止まるまで戦ってやるぞ、と決意する。

しかし、体を痛めつけても、まだまだ練習が足りないのではないかと、不安感が一杯。

練習以外はそれこそ、ベッドにごろりと横になり本を読むばかり。部屋には日本のホテルのように、テレビもなければラジオもないといった具合い。時折り、各国の選手達が部屋を訪れてきても、試合前は神経が疲れるので、なるべく会わないようにしていた。小島は部屋で何をやっているのだ、よくまあ眠り続けられるものだ、と呆れる者もいた。

いよいよ試合開始。デンマークはバドミントンがハンドボールに次ぐNo.2スポーツ。予想が連日スポーツ紙に大々的に報道され、私の練習風景とか目標などのコメントが載るので、否応なしにも気持は高まり、興奮状態は頂点に達する。どの試合でもそうだが、1回戦が始まるまでは嫌なもので、また終われば終るで次の対戦相手のことが気になり、胸しいものだ。

2回戦を順調に勝ち進み、準々決勝は西ドイツNo.1のボショウ。身長1メートル85の巨漢選手。バックハンドのスマッシュが、フォアより強いのではないかと思わせるほどであった。長い試合の末、第1ゲームを取られ、2ゲーム目も10―5とリードされる。「畜生ッ、こんな野郎に負けるのか」と一瞬ではあるが頭をよぎる。こうなったら開き直ってしまえ、体力合戦でとことんラリーを続けるのだ。この作戦が功を奏し、逆転。しかし、ファイナルゲームのスタート、ほっとした気持がプレーに表われてリードを奪われる。「また粘らねば」こうなったら意地だ、次の試合のことなどもちろん考えていられない。足がつろうがどうなろうが、あれだけ苦しんで苦しんで走り込んだのだ、あの努力が無駄になるはず

がない。マラソンゲームに持ち込むのみ。確実なチャンスボールを作るまでは、無理をせず無理をせず……。やっとマッチポイントを握る。逆転に成功。しかし勝った喜びより、これでまた試合できると思うばかり。

海外での個人戦のシステムは、準々までは単複ともに、一日2～3試合を消化するが、準決からは一日1試合の文字通り一発勝負。体力を思い切り十分に発揮できるのである。

準決勝は過去、秋山氏を決勝で倒し全英チャンピオンとなったタン・アイク・ハン（マレーシア）。そのコーチがエディ・チュン（マレーシア）。彼も全英を取ったことのある大選手。そのプレーは確実なディフェンスと正確なクリアー。それは見事なもので、1ゲーム目は相手が元気なので苦戦、もしくは落とすこともあるが、長びけば長びくほど調子が出てくるタイプで、2ゲーム、3ゲーム目を楽勝するケースが多く得意としていた。



ヒゲ面の大男の中で小柄な筆者が優勝

私も最初のトマス・カップで彼と対戦し、1ゲーム目は12オールまで競っていながら落とし、2ゲーム目は0という信じられない負け方をしている。とにかく打っても打っても壁のごとく返ってくるのである。これはもう、準々と同じく〝殺し合い〟をやるしかないとの結論が出る。えてして、トーナメントの前半に長期戦を戦っていると、スタミナに自信がつき、リードされても焦りが生じないものだ。

1ゲーム目は、長いラリーの末に失う。また同じことの繰り返しか、2ゲーム目も12―6の万事休すかと思うが、昨日も同じパターンで逆転したぞ「やるだけはやってみよう」と気力を奮い立たせる。すると信じられないことに、相手に疲れが見えてきた。動きが遅くなり、呼吸も苦しそうだ。「いける。やるぞッ」そして遂に挽回。15―12で第2ゲームを奪う。ファイナルも常にリードを保って勝利を握る。とうとうスタミナNo.1を破ったのだ、観衆もこの逆転勝ちには少々驚いた様子だった。

もうこうなれば優勝しかない。決勝で負ければ、今までの苦労が水の泡である。相手はデンマークのE・コプス。全英を7回制したバドミントンのキングである。コプスにしてみれば、この日本の小僧などに負けるわけはない、と思っていたに違いない。なにせネームバリューはもとより、実力でも格段の差があるのだ。どうみても勝ち目はないと誰もが考えていただろう。

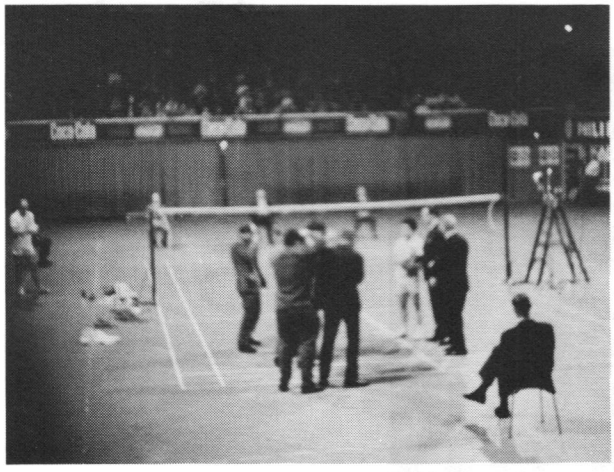
しかしコプスは、もう峠を越えた選手。こちらには若さがある。内心ではそう言いきかせて期するものがあった。

そして、〝まさか〟が現実に起ったのだ。それもストレートの楽勝。

試合後、ただちに表彰されたが、涙が出て仕方がない。遂にやったのだ。初のビッグタイトルを手にし、超満員の観衆は拍手と床を踏み鳴らして祝福を送ってくれる。これが全英ならば、とふっと思う。最終目標の全英もこのような感激と興奮を味わいたい。

一夜が明ければ、次の全英に向って激しい練習に打ち込まなければならない……。

（次号へつづく）



優勝した瞬間、カメラの放列に囲まれる筆者

エツコのバドミントンライフ

⑨栂野尾悦子

# 全英のメンバーにもれ 国際学生でがんばる

一九六八年十二月、全日本総合選手権ダブルス初優勝は、全英選手権出場への意欲の起爆剤となり、目前に確かな目標として浮かび上がってきたのです。この年の暮れからお正月にかけて、長崎で行なわれたユーバー杯初防衛のための合宿は、そんな私達にますます追い打ちをかけるようでした。

合宿のメンバーは、高木・天野・高橋・後藤・湯木・本間・浦口・相沢・私の九名。一番年下で気の利かない私達は、コート上はもちろんのこと、合宿生活においても、ちょっとした細かいことから教えられることが多く、個性豊かな先輩達との合宿が今でも役に立っています。

しかし、いったんコートに入れば先輩も後輩もありません。全日本を取ったからといっても、全てに通じる安定した実力とはいえず、点数が競り合い、勝ったり負けたりの毎日でした。ユーバー杯のエントリーは六名で、どうしてもそのメンバーに入り、本番の六月に自分達の力を試してみたかったのです。相沢さんと二人で、〝何でも一番〟という合言葉をつくり、起きるのも、体育館へ行くのも、ランニングもトレーニングも、とにかく何もかも一番先になるようがんばろうという意気込みで合宿に臨んだのです。それが、一番強くなれることに結びつくようにという阿部一佳先生の暗示的な提案でもあったのです。

一九六九年の新年を迎えたある日、かつて全英選手権ダブルスで何度もチャンピオンの座を獲得したという、デンマークのコペロ、ハンセン(デンマーク)組の試合を8ミリで見たことがあります。ネット前の魔術師といわれた二人のダブルス。まるで、シャトルが待ち構えるラケットにいやおうなく吸いついていくように、二人の手にかかったら思いのままに操られてしまいます。前衛か、後衛か、どちらが手を出しているのかわからないくらいに、相手がすきありと見て打ったと思えるコースでも、どこからかスッと手が、いえラケットが出ているのです。決まると思う鋭いショットもアッという間に捕え、スピードを

学長を囲んで



完全に殺してネット前に沈めてしまう鮮やかさ、前衛を抜けたショットが、もう一人前衛がいたかのごとく、後衛の体がいつの間にか前にまでカバーし、逆に攻めているのです。その予見力と巧みなラケットワークは、魔術師さながらのテクニックです。しかしその神技も決して天才とか恵まれた素質とかだけで納得できるものではないのです。狭い化学研究室で見た、一コマ一コマは、鮮やかに私の髄をノックアウトしてしまいました。その興奮は、コートに入ってもさめやらず、『いつか自分も……。いつか自分もあんなプレーをしてみたい。そしてきっと世界一の前衛になってみせる』と心の中で叫んでいました。(その決心は、口にすることさえ恥ずかしく、また、人に話すとこわれてしまいそうで、こうして初めてバド界に記すのも、ああ言ってしまった……と少し後悔しているのですが……)



B・ジャイエン選手と一緒に

世界一の前衛への挑戦は、最近ようやく踏み出されたばかりなので、この秘められた決意は、今もなおじっくりと生き続けているのです。そういうわけで、私のバドミントンは、いつまでもやめられそうにありません。コペロ、ハンセンのダブルスのフィルムはさらに全英への夢をふくらませていったのです。

この頃はまだ、バドミントンではサーキットトレーニングという名前が目新しい時期でしたが、短時間に、全身の筋力の強化ができるトレーニングとして有効であるとし、全英選手権に出場できることを前提に、さっそくこのトレーニングが取り入れられ、私達の練習後の日課となっていました。新潟は、バドミントンにおいて古い伝統を誇る土地です。そして、古く高度な伝統というものは、更に進歩的なこと、より有効なものを憶せず吸収し応用していくからこそ、なお伝統に磨きがかかり、すばらしい指導者や選手が育っていくのではないでしょうか。

全英選手権派遣の通知は一向に届かず、あせる思いをがまんして練習にトレーニングに励んでいたものの、いつしか日が過ぎ、出発予定間近になって選ばれなかったことを聞かされました。さらに一年待たねばなりません。二人の落胆は大きく、一年が長く遠く感じられました。来年出場できるためには、有無をいわせぬ実力をつけることしかないのです。

ここでちょっと内諸話をしますと、自分の練習がうまくいかなかった日、何かいやなことがあった時、ホームシックも混ざって、お風呂場で、お湯の音にまぎれて声を殺して涙を流したこともあります。そこが私の唯一の自分だけの場所でした。皆が寝静まった頃、ノートに一日の練習の反省や明日の目標を書きこみます。それから友達に手紙を書いたり、ししゅうをしたり、いつも床につくのは二時ごろで、朝は六時半に起きて、満員バスに揺られて短大へ。染色デザイン専攻の私は、学校にいる間いつもロウの匂いに囲まれていました。くたくたになって帰る練習の毎日なのに、よく体がもったものだと我がことながら感心すると同時に、こんな無理も若い時にしかできない大切な思い出なんだなぁとしみじみ思います。とにかく一日の時間をできるだけたくさん、フルに使いたかったのです。

短大二年の夏、国際学生選手権でフィリピンのマニラ市へ遠征しました。対日感情が良くないという心配をよそに、現地の人達の暖かい歓迎に快く試合ができました。人々はのんびりしていて時間の観念がなく、試合場への専用バスも、一時間ぐらいは平気で遅れてきます。貧富の差は大きく、小さな子が路上でアイスキャンデー売りをしたり、物乞いをして生活している家族も少なくないようでした。いつも体育館の入口で木箱にお菓子を入れて売りにくるマリオ君という少年が、日本チームのアイドルになり、二日間ほど風邪とかで姿が見えない時は皆、本気で心配したものです。この大会で私は、団体、個人(シングルス、ダブルス)の三タイトルを手にすることができました。特に団体とシングルスの優勝は初めてのことで、マニラの夕陽の美しさと共に忘れられない遠征となりました。

(次号へつづく)

われらのクラブ

# ジュニア部員の飛躍が楽しみ

## ⑩ 宇都宮 ダッシング・クラブ

私達は1週間に2～3回、午後5時から8時までおもに市立の体育館で練習しています。

クラブの発足は昭和38年、当時市内はもとより県内でも、職域のクラブ以外の一般のクラブの発足は初めてであったろうと記憶しています。

以来15年、多くの人が入部し、また去っていきました。そして現在、小学校6年生から40歳間近の代表まで、それこそ老若入り混じり、県いや日本のバドミントン界に少しでも貢献しようと（?）がんばっているところです。

さて、昭和53年も一同元気にスタートしました。それにこの時期に嬉しいニュースがあり一同喜んでいます。というのは県中体連の52年度優秀選手12人の中に、ジュニア部員の戸村、吉沢両君が入っていたことです。

一般部員の中で、青森国体県代表として参加した2人と合わせて、他の部員の目標がまた一つふえ、ふだんの練習にもいっそう熱が入ることと思っています。

1月現在、一般部員15名、ジュニア部員15名、部費は一般千五百円、ジュニア部員は八百円で、諸条件悪化の折り苦心して部員の技術向上を第一義に運営しています。

最後に、読者の皆様にお願いがあります。わが「ダッシング・クラブ」のような規模で運営されているクラブがありましたら、ぜひお知らせいただきたいのです。近県で定期的に試合などで交流できるようなクラブでもありましたら、ジュニア部員が特に張り切っていますのでご連絡ください。

〔連絡先〕
〒320 栃木県宇都宮市住吉町15の7
宇都宮ダッシングクラブ
代表 村岡 欽也
TEL 0286—36—2801



正月の初打ち大会のおりのジュニア部員

# チャンスが来たぞ。

世界の一流プレイヤーが
使っているヨネックスの
インターナショナル製品を
抽選で、10,000名の方に
プレゼント。

●下記のヨネックス製品をおもとめください。

ラケット

B1000　B2000　B3000　B4000　B5000
B6000　B6500　B7000　B8000　B8100
B8300　B9000　B9100　B9300

ウエア

日本バドミントン協会推せんのすべてのシャツ、ショートパンツ、ワンピース、スカート、キュロット、セーター、ベスト。そのほかウォームアップ、トレーナー、パーカー、ウインドブレーカー。

バッグ

No.354　No.355　No.350　No.351　No.352（A・Bのみ）
No.356　No.357　No.359　以上該当商品

●抽選で10,000名の方に下のものどれか1点をプレゼント。

1.バッグA　2.バッグB　3.ポット　4.ラケット　5.ウォームアップ　6.タオル　7.ラケットケース　8.ガット

以上の商品はイギリス、オランダ、スエーデン、デンマークなどの国々で人気の高いヨネックスのインターナショナル製品です。

●ご応募の方法

おもとめになったヨネックス製品（該当商品）についている応募ハガキに、おもとめの製品の価格シールをお貼りになってお送りください。

●実施期間

昭和53年2月1日～5月31日（応募締切）

●当選発表

昭和53年6月15日
雑誌〝バドミントン界〟誌上と各参加店の店頭
なお、プレゼント商品はおもとめになったお店を通してお渡しいたします。




③バドミントン・ポット（500個）
シャトルコックスタイルのシャレたポット



②バッグB（500点）
ヨーロッパ一流プレイヤーのサイン入り




①バッグA（100点）
ラケット、ウェアなどが専用に納まる特製バッグ
（※写真のうち、ラケット、ウェア、アクセサリーなどは含みません。）



⑤ウォームアップ
（100セット）
断然人気のNo.118型特製



④ラケット
B-9100（300本）
サイン入り



⑥タオル
（500本）
特大のスペシャルタオルです




⑦ラケットケース
（3,000枚）
特製サイン入り



⑧ガット（5,000張）
ヨネックス高級ガット

YONEX WORLD BADMINTON FAIR

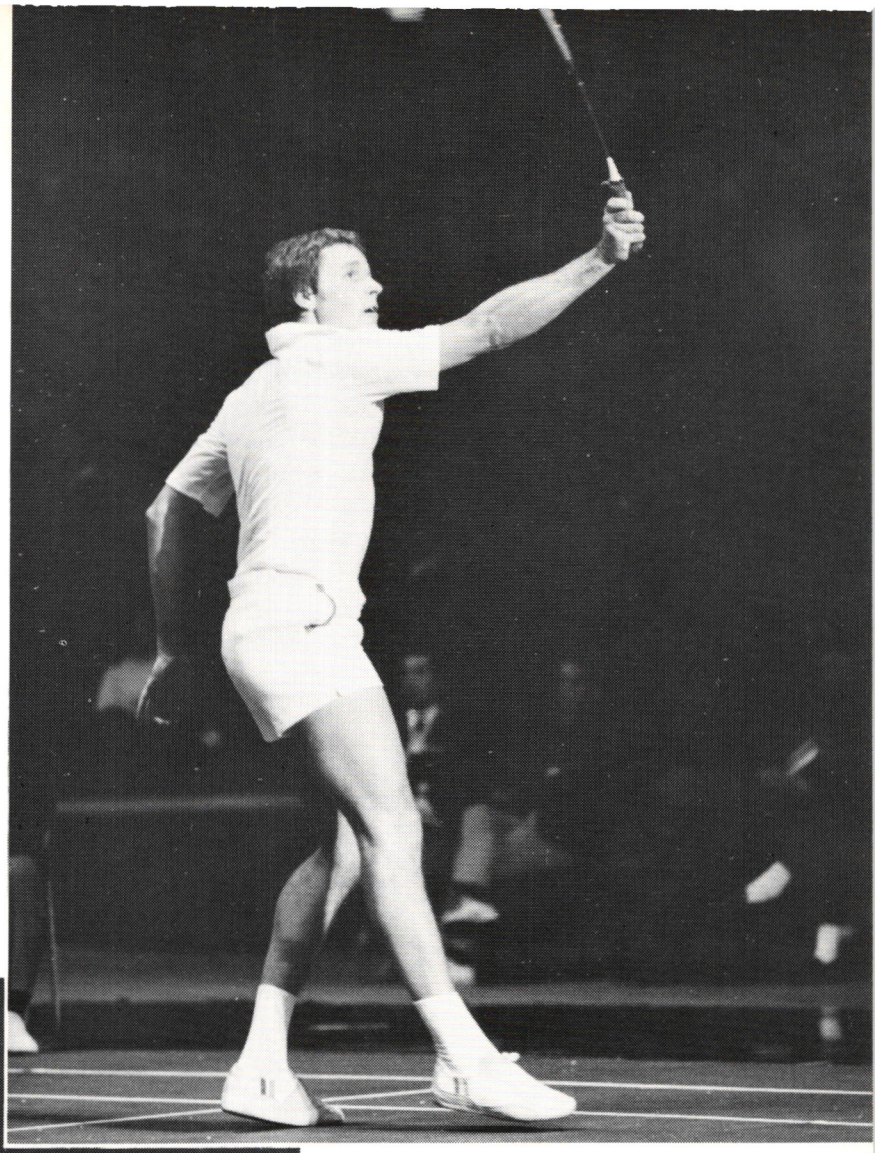
# ヨネックス ワールド バドミントン フェア

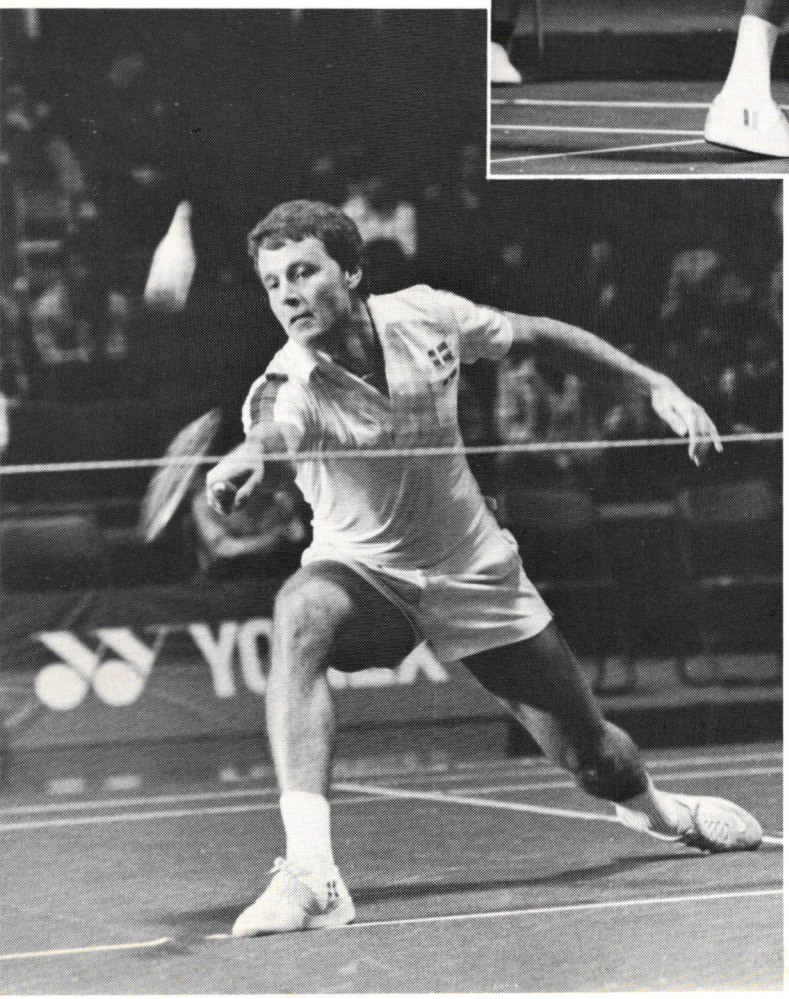
10,000名さまプレゼント!

YONEX®

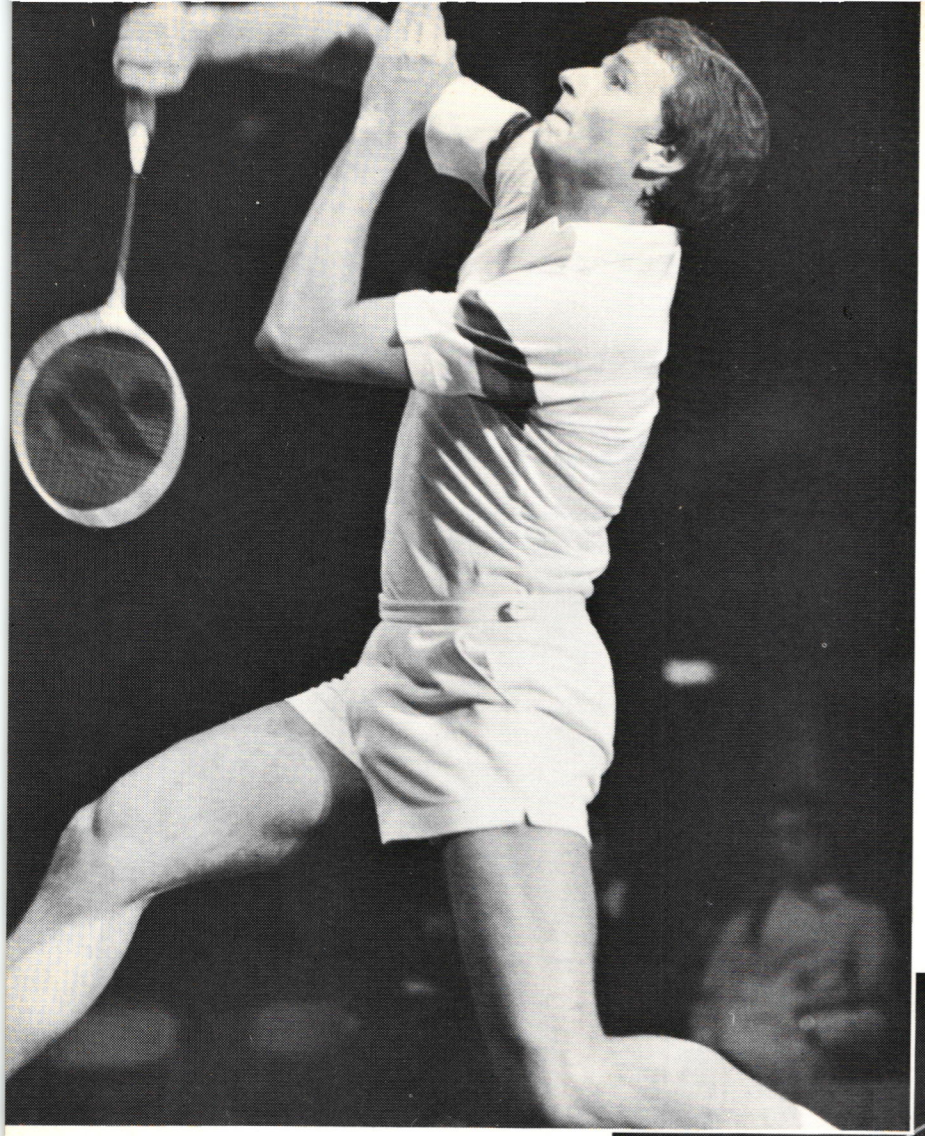
# 余裕しゃくしゃく

強靱なバックハンドはだれにも真似できない



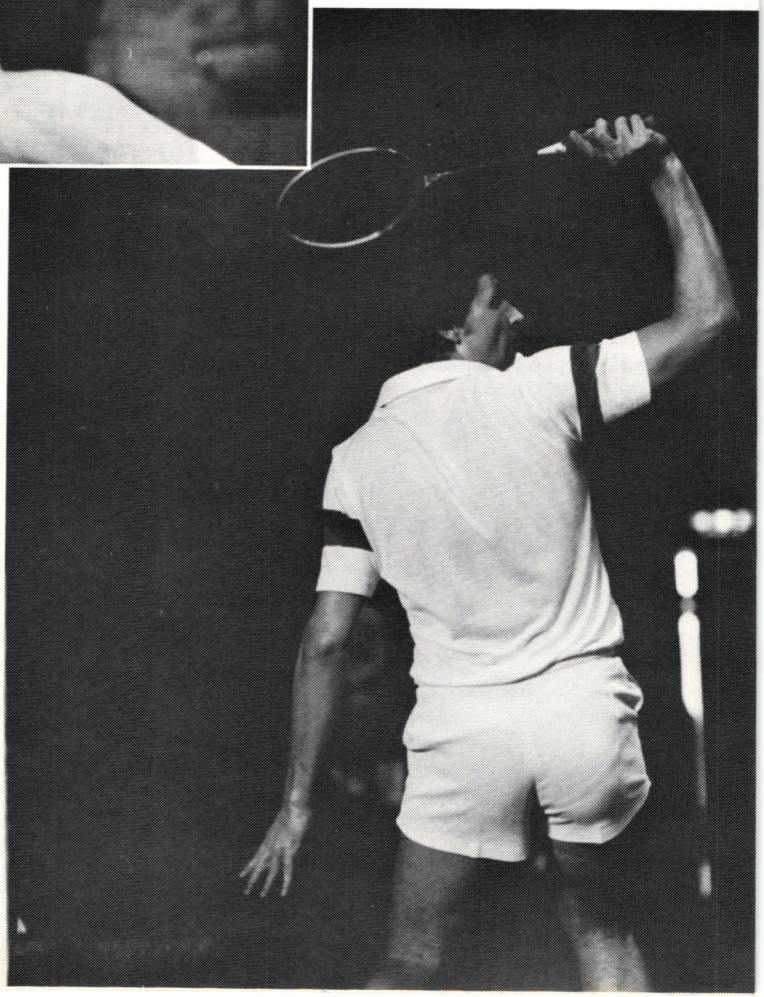


シャトルを追う目はさすがに鋭い



打点の高さがデルフスの武器

# デルフス



盆踊りではありません

# ファッショナブル・スポーツ——バドミントン。

## 厳選された豊富さでお応えいたします。 BADMINTON

ファッション性とスポーツ性——この2つをより合わせ持つファッショナブル・スポーツーバドミントンの感覚を肌で感じにいらっしゃいませんか——！

色あざやかにそして機能性も豊かなウェアやバッグなど——バドミントンのすべてが常にフレッシュな状態でスタンバイ。

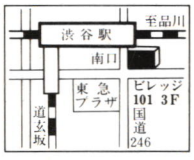
## 日本最大の専門店 ウインザー ラケットショップ。

毎月曜日定休・祝祭日を除く

### 渋谷店

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7(ビレッジ101ビル3階) TEL 03-464-9251~2 〒150

●営業時間／午前10時～午後7時30分







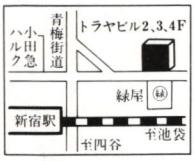


毎月曜日定休・祝祭日を除く

### 新宿店

東京都新宿区西新宿7-10-20(トラヤビル2,3,4階緑屋前) TEL 03-363-6848 〒160

●●●営業時間／午前10時～午後7時









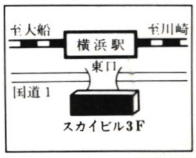
年中無休

### 横浜店

横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口

(スカイビル3階) TEL 045-461-1785 〒220

●●●営業時間／午前10時～午後8時




## WINDSOR RACKET SHOP

carlton

# New Badminton Racket




●PHOTO カーボニック・ブラック

●PHOTO ニュートーナメント




## 威力壮烈!

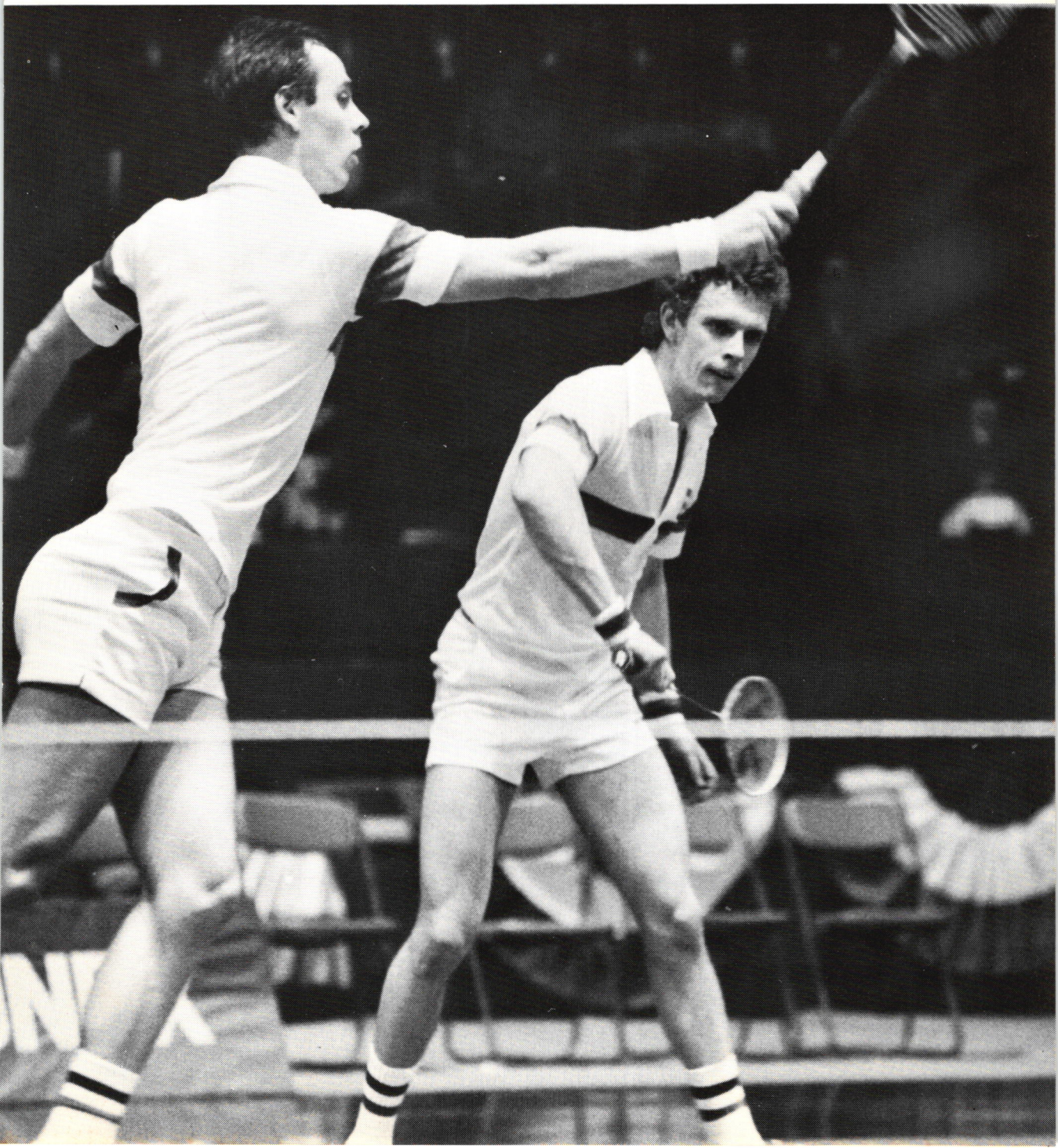
20世紀最後の素材といわれる理想の繊維カーボン。繊維に対して直角の方向に、驚ろくべき強さをもち●たわみに富む●するどい弾性とすばやい反発力を生む●しかも耐久性に強い……という最高の条件を備えています。

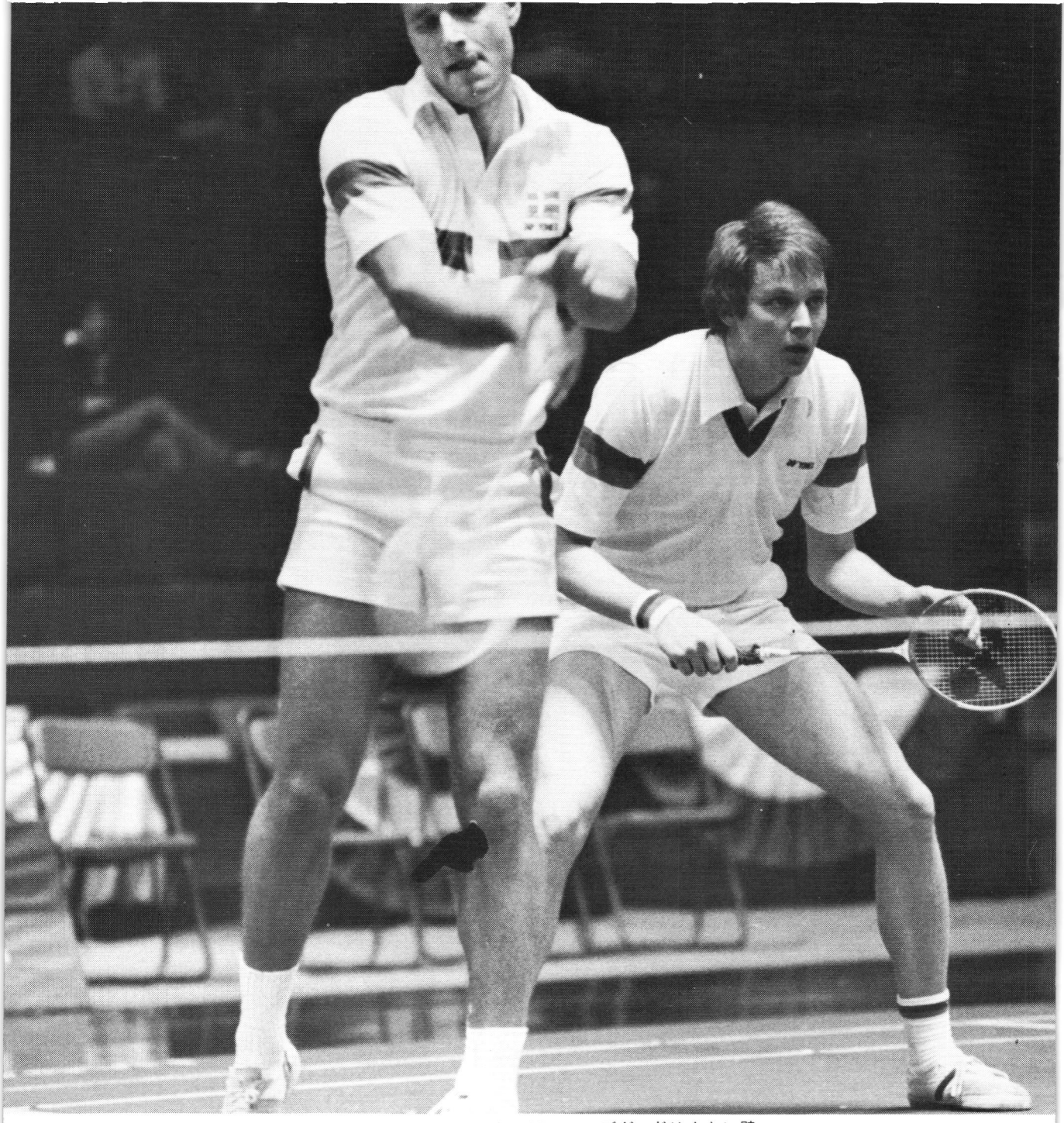
metro

総発売元 メトロレジャー株式会社 〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

# 精彩欠く“欧州の雄”

速いタッチが見られず苦戦するキールストロム・フローマン



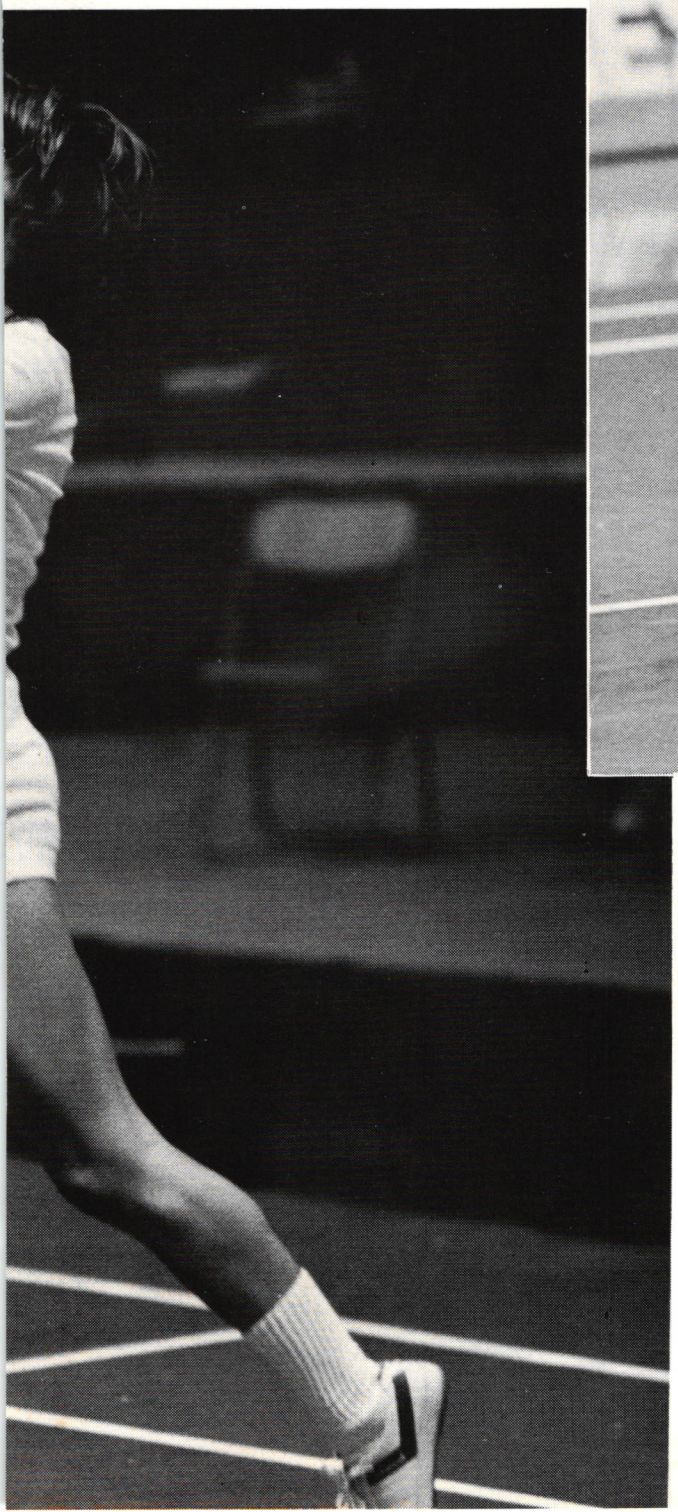


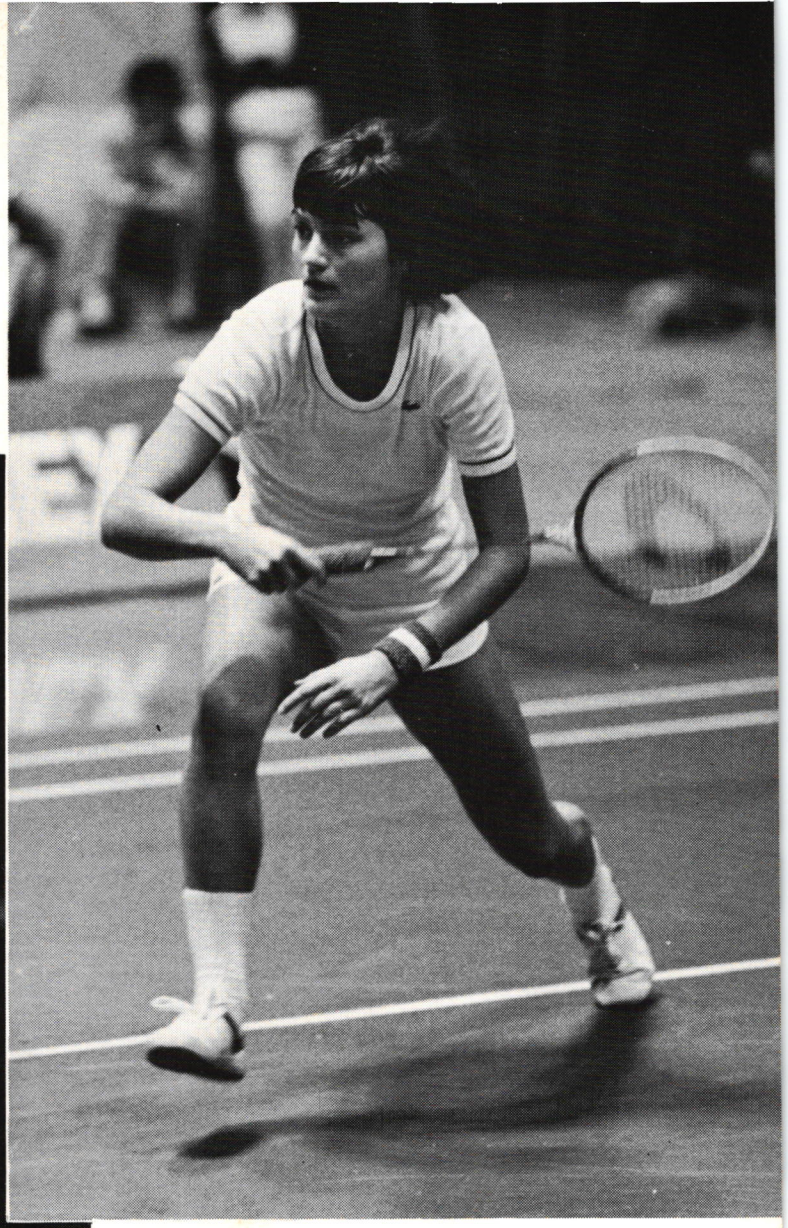
1メートル90のデルフス、1メートル95のスコブガードはまさに壁

# 高圧的な“4メートル”

# うコーペン

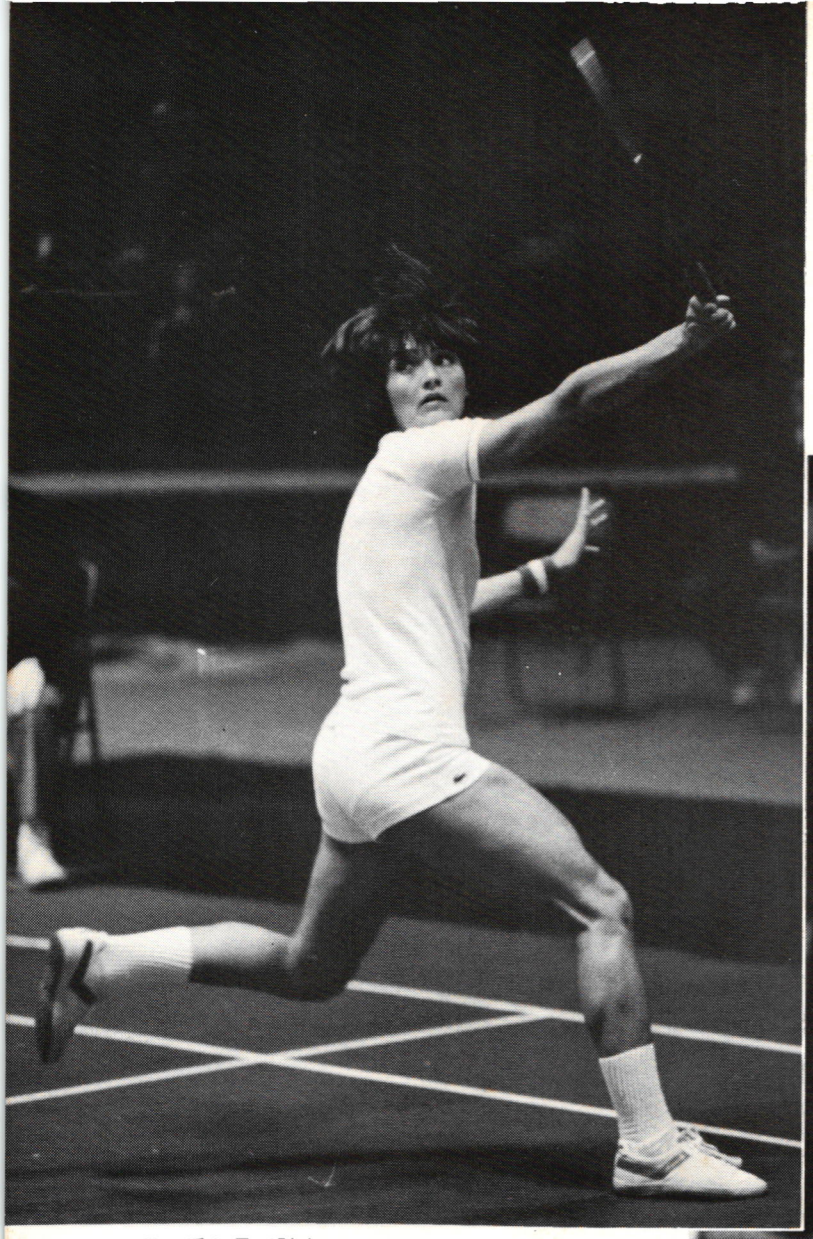
マイペースの試合運び





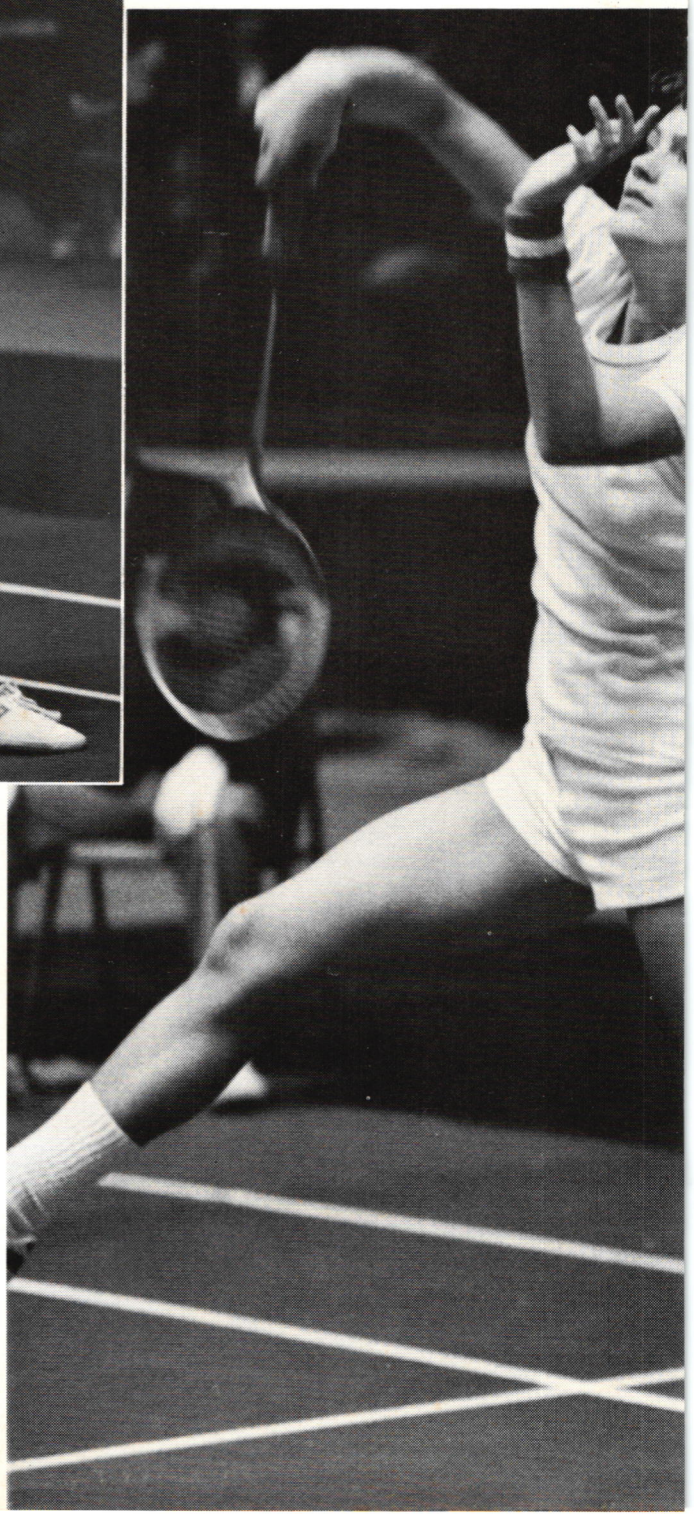
視線はタカのように

# コートを舞



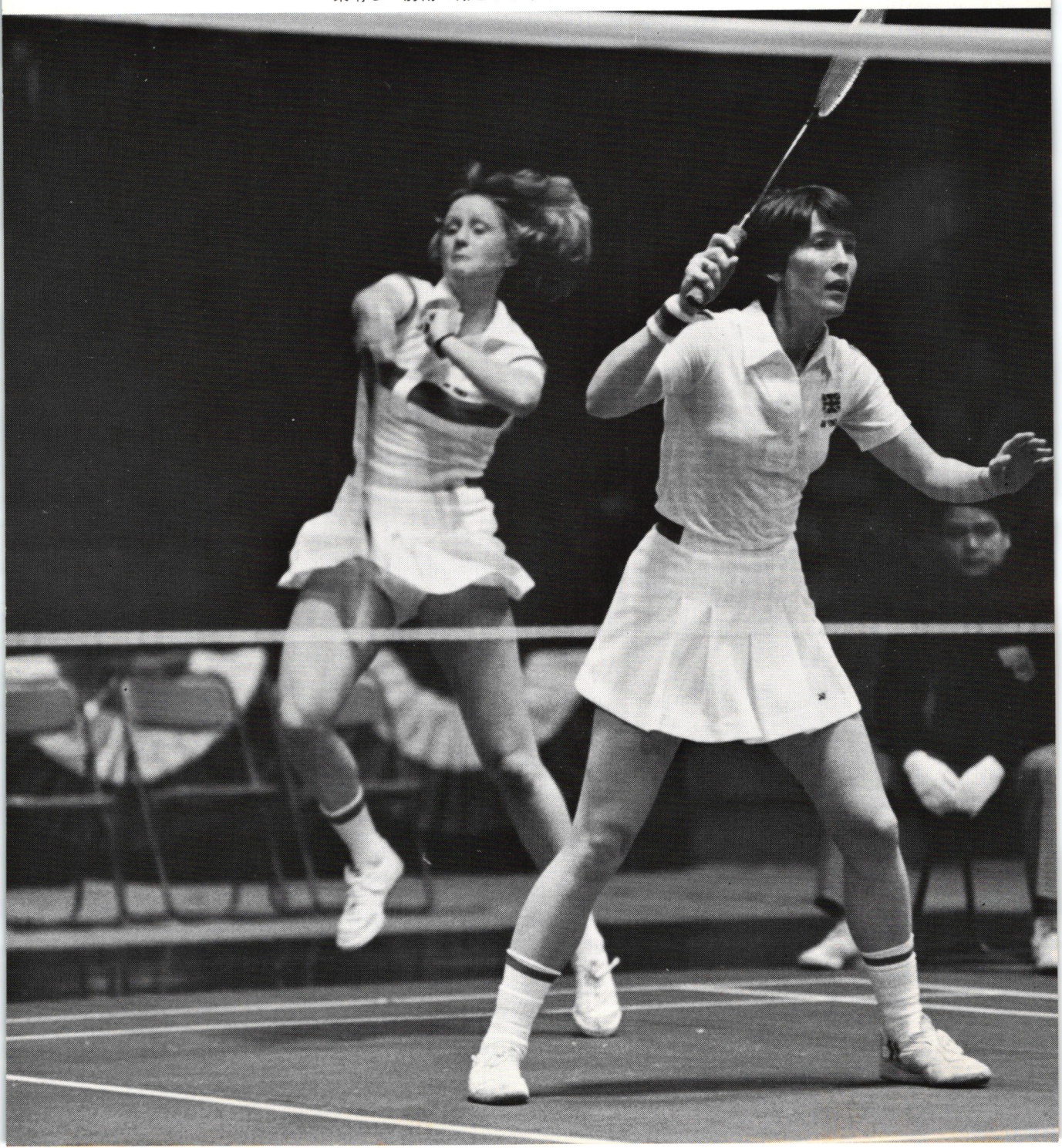
長い手と足が財産

自信満々のラケットさば



# 華麗“英国の伝統”

素晴しい前衛の勘とラケットワークを披露



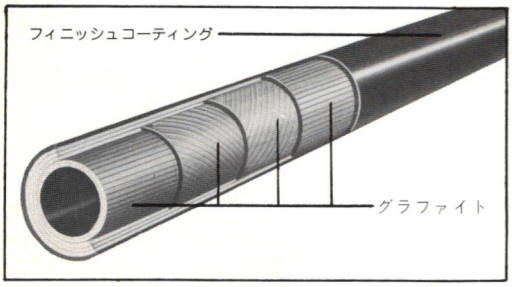



カワサキラケット

河崎ラケット工業株式会社

# GRAPHITE RACKET

画期的なものを生むためには冒険が必要です。B−82もこの例にもれません。グラファイトファイバー繊維は異方性にとむ性質で、配列しだいでは性能が大きく変わります。カワサキはこの難問を独得のクロス加工で解消。方向の異なるグラファイト繊維を4層に重ね合わせ、素材のもつ特性を最大限に引き出しました。これこそ世界が待ち望んでいた理想のラケット。スチールパイプにカーボンをまきつけただけというラケットとは威力が違います。この完成度の高さはカワサキならではのもの。






新発売

**B−82**
**●エイト・ツウ**
グラファイトシャフト
アルミフレーム
シルバー（ケース付）
フレーム価格8,000円
ガット張り上り価格8,700円



新発売

## 世界初の100%グラファイトシャフト

**B-80**
**●エイティ**
グラファイトシャフト・ウッドフレーム
黒（ケース付）フレーム価格7,700円
ガット張り上り価格8,400円

from carlton England

# 1,000,000ダース

カールトン・ナイロンシャトルの年間生産量です。

ニュートーナメント

1個
¥280



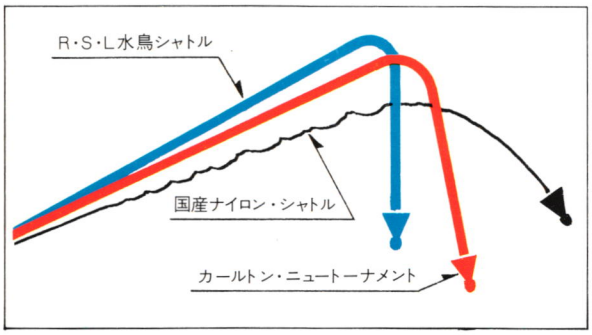


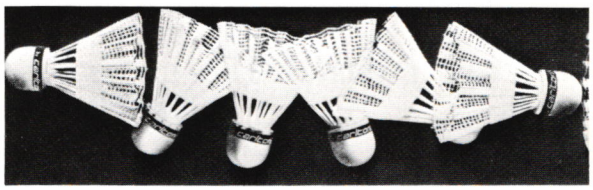


インターナショナル

1個
¥220

だから、こんなに安い価格で輸入品がお求めになれます。



ニュートーナメント：ターンオーバーがはやい。

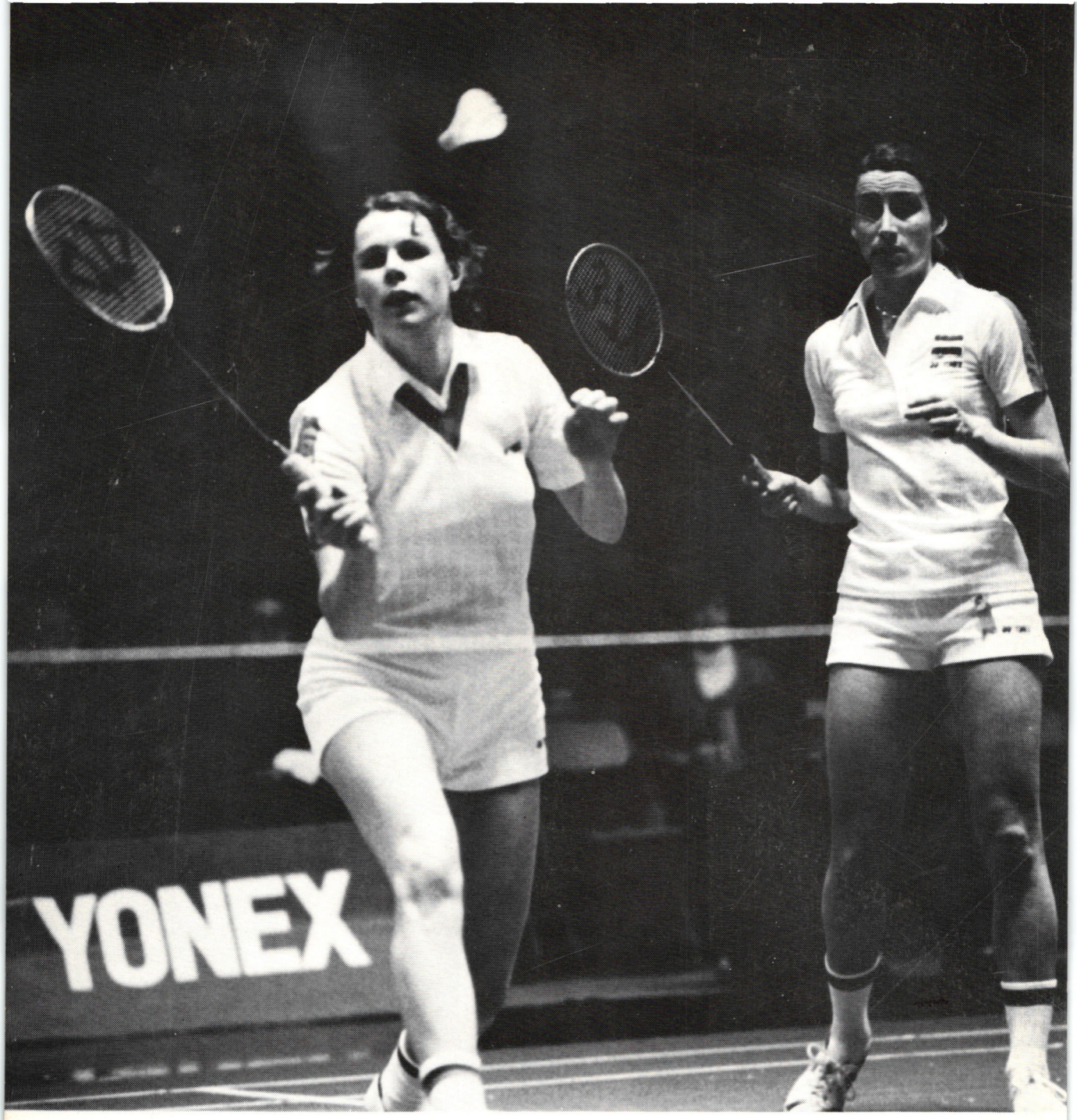
左の図は、シャトルの飛行線を表わしたものです。カールトン・ニュートーナメントが水鳥シャトルの飛び方にいかに酷似しているか、おわかり頂けると思います。

しかも、国産品とは飛びが違います。

総発売元 メトロレジャー株式会社
〒101東京都千代田区外神田5－6－4 ☎(03)833－3661(代)

だから

# シャトルコックならカールトン

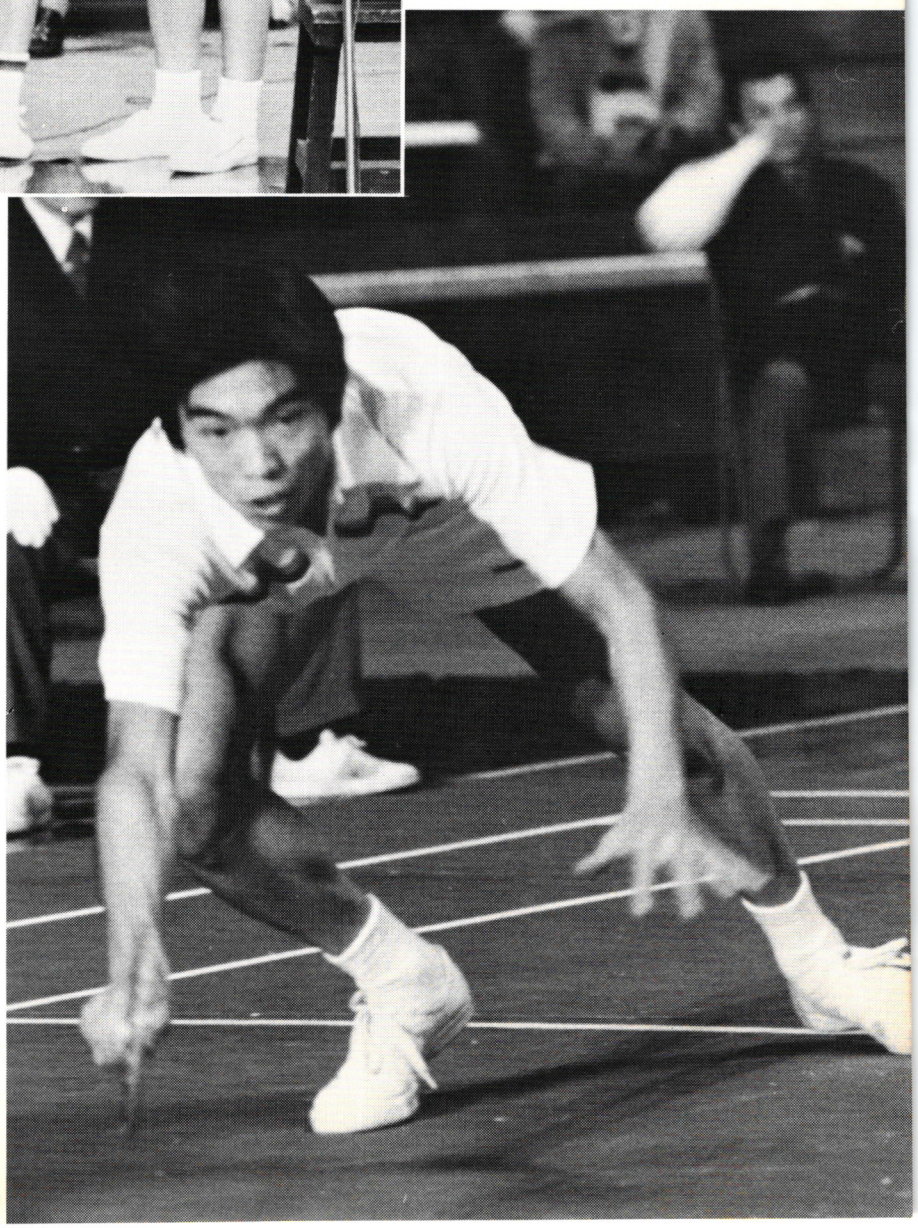



ご機嫌ななめのビューセコム・リダーは早ばやと敗退

# 大物“片鱗”をチラリ

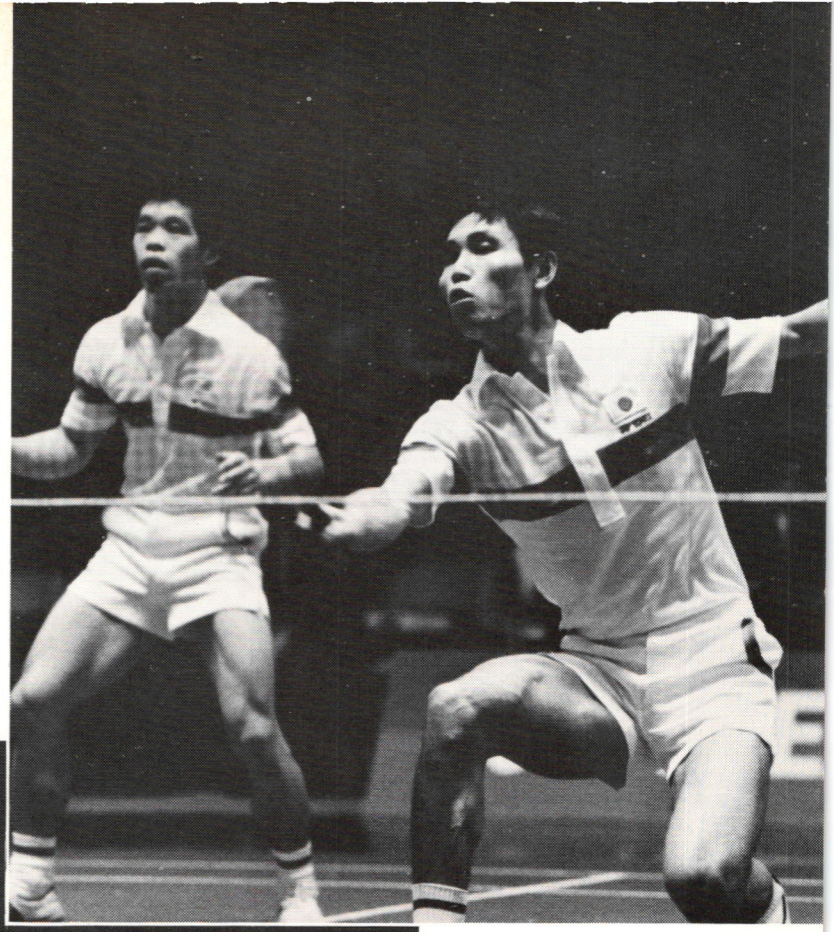


新鮮な話題をふりまいた植野・米倉

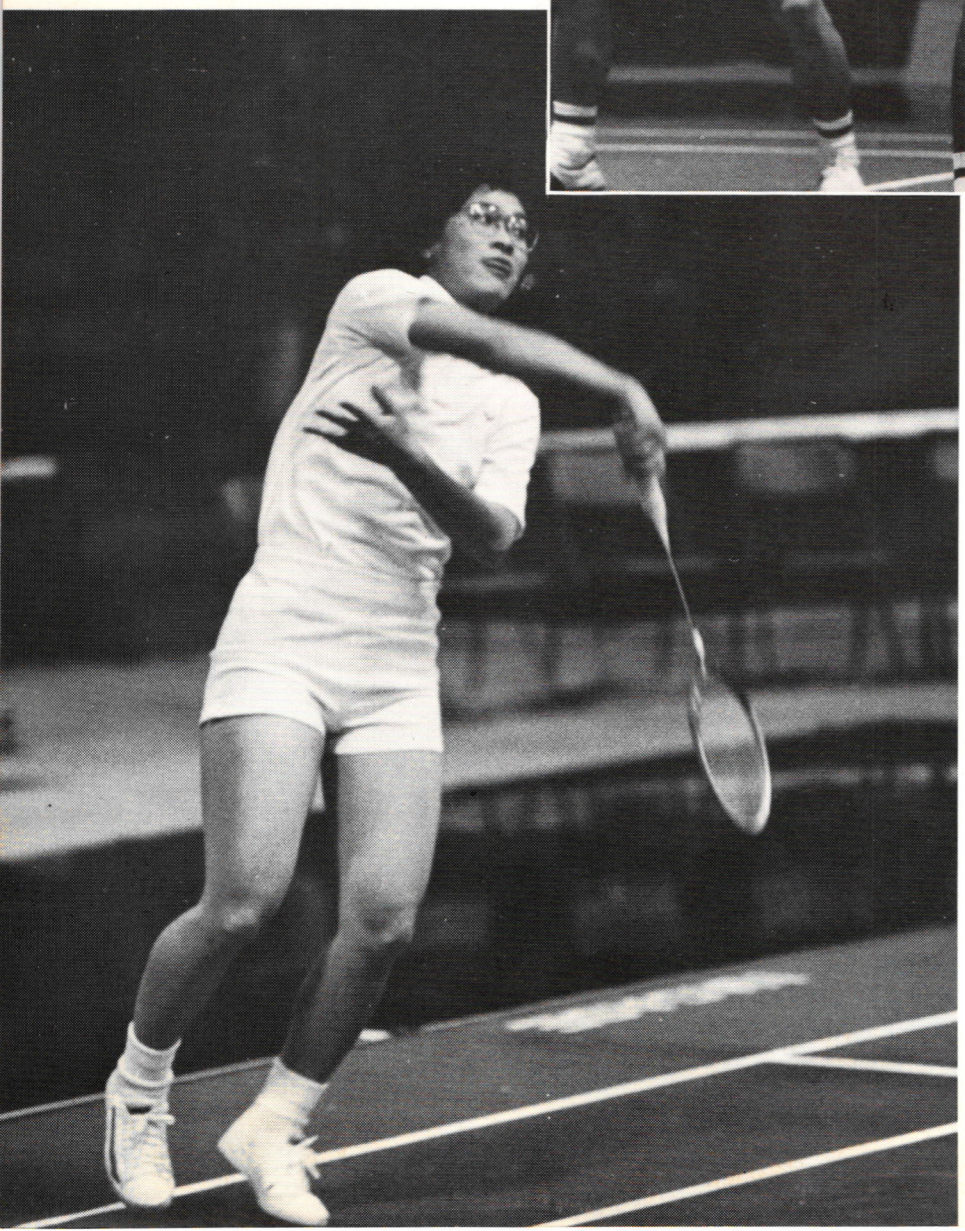


銭谷もあと一息の善戦

# 日本選手も



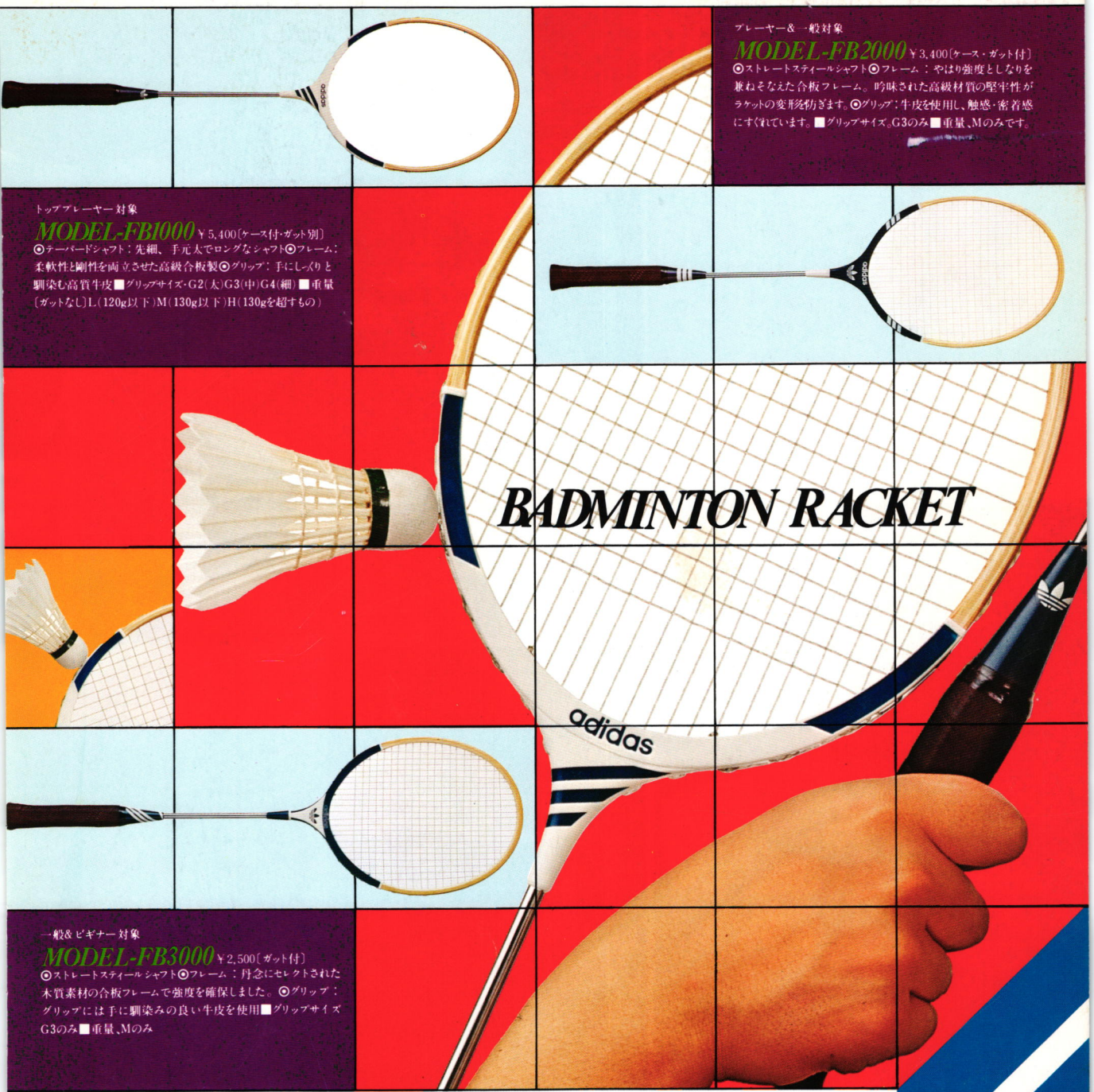
イギリス・スウェーデンのペアを撃破、池田・栂野尾



# がんばる

今度こそコーペンに勝って欲しい近藤

# ライバルを沈めろ。adidas®、破壊的なパワーで絶賛。




プレーヤー&一般対象

**MODEL-FB2000** ¥3,400〔ケース・ガット付〕

⦿ストレートスティールシャフト⦿フレーム：やはり強度としなりを兼ねそなえた合板フレーム。吟味された高級材質の堅牢性がラケットの変形防ぎます。⦿グリップ：牛皮を使用し、触感・密着感にすぐれています。■グリップサイズ：G3のみ■重量：Mのみです。

トッププレーヤー対象

**MODEL-FB1000** ¥5,400〔ケース付・ガット別〕

⦿テーパードシャフト：先細、手元太でロングなシャフト⦿フレーム：柔軟性と剛性を両立させた高級合板製⦿グリップ：手にしっくりと馴染む高質牛皮■グリップサイズ：G2(太)G3(中)G4(細)■重量〔ガットなし〕L(120g以下)M(130g以下)H(130gを超すもの)

一般&ビギナー対象

**MODEL-FB3000** ¥2,500〔ガット付〕

⦿ストレートスティールシャフト⦿フレーム：丹念にセレクトされた木質素材の合板フレームで強度を確保しました。⦿グリップ：グリップには手に馴染みの良い牛皮を使用■グリップサイズ：G3のみ■重量：Mのみ

adidas®はどの1本をとっても素材が生きている。と、これは定説です。素材の持ち味。その良さを100%引き出す……技術陣にかせられたこの大きな難題に応えるものは独自のテクノロジーとバドミントンそのものへの情熱です。ラケットとは何かの原点から始まった形、構造への徹底追求。そして「いままでのモノは、ここがこう満足できない。で、こうして欲しい。」という現役トップの熱望……。すべて組みこみました。くまなく改良しました。バランスの良さ。なじむグリップ。この軽さ。いま、最新鋭のadidas®、いち早く使いこなすのがライバルを泣かす秘訣……

adidas® ®

MADE UNDER ADIDAS LICENCE

いま、すべてのスポーツマンに3本線のNo.1感覚を

● お求めはadidas特約店で。

adidas

製造業者 KG 兼松江商株式会社

発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2 5 3 ☎06-305-1431 〒101 東京都千代田区内神田1 11 13〈橋本ビル〉 ☎03-295-5611

いまうわさの……




SUPER RUSH

**S-76** スーパーラッシュ

極細の特殊加工スチールテーパーシャフト使用。
反発力が一段と増し、抜群の攻撃力が生まれプレーヤーの持っている力を十二分に発揮出来るすばらしいパートナーが出現しました。

*play with...*

SunBatta

分析シリーズ②

# フライトの種類と速さ

日本体育大学女子監督　関根　義雄
国分寺市バドミントン協会　平川　卓弘

## ●分析1　男女複のフライト数

今回は選手が試合中に、どのようなフライトを打っているのか調べてみました。

ここに示した資料はテレビで放映されたものをビデオコーダーで分析したものです。

男子ダブルスは昨年52年2月16日甲府市でおこなわれた日本選抜対ヨーロッパ選抜の対戦からのものです。ナマ放送だったために第1ゲーム全部と第2ゲームの初めの部分、それにコマーシャル時間が入ってしまったため第3ゲームの最初の部分も記録されせいません。女子ダブルスはそれより3ヵ月ほど前の51年12月におこなわれた全日本総合選手権大会女子ダブルス決勝戦のものです。これは幸い全部記録されていました。表1と表2にその結果を示します。

男子ダブルスの場合（表1）分析対象になった時間は第2ゲーム6分4秒、第3ゲーム20分20秒で合計26分24秒です。この間に打たれたショット数はサービスを含めて、728本になります。このすべてを表にしました。

同様に表2は女子ダブルス第1ゲーム29分58秒、第2ゲーム6分38秒の合計36分36秒間に953ショットされたものをすべて記録したものです。

図1および図2にフライトの種類を示しました。図で説明しにくいフライトにストップショットとアンダーカットがあります。ストップショットは味方のコートに飛んできたシャトルをスマッシュまたはプッシュできる高さでとらえて、味方のコート中央部からネットに落すショットをいいます。アンダーカットは別名アンダーハンドドロップともいっているものです。スマッシュされたショットをネット際へスピードを殺してリターンするショットをいいます。

## ●男子複の解析　スウェーデン組が圧倒的に攻勢

表1に示す通り、攻撃面でみるとスマッシュはスウェーデン組が96本、日本組は40本と大きな差になっています。一方プッシュはスウェーデン組50本対日本組54本（それぞれ全ショットのうち16%対17%）と大差ありませんが、ドロップショット40本対27本、それにヘアピンも32本対22本とスウェーデン組の方が多いようです。スウェーデン組がスマッシュをするためには、その前のショットが高く上っていたことになります。そこでクリアーの項目を見ると、なるほどよく理解できます。アンダークリアーは日本組が69本、スウェーデン組は33本です。このほかハイクリアー、ドリブンクリアー、アンダードリブンクリアーともに日本組の方が多くなっています。そこでデータからこんなことが想像されます。日本組が相手に打たせているかまたは上げさせられているのではないかと、もし打たせているとしたら攻撃用のスマッシュ、プッシュ

## 表2　女子ダブルスのフライト数

1976年度全日本総合バドミントン選手権大会
女子ダブルス決勝　昭和51年12月・代々木第2体育館

| 選手名 / フライトの種類 | 梅野尾悦子 | 植野恵美子 | 小計 | 湯木博恵 | 池田美加 | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ショートサービス | 1 | 6 | 7 | 16 | 16 | 32 | 39 |
| ロング サービス | 25 | 17 | 42 | 1 | 5 | 6 | 48 |
| ドライブサービス | 4 | 2 | 6 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| ハイクリアー | 11 | 12 | 23 | 9 | 9 | 18 | 41 |
| ドリブンクリアー | 8 | 8 | 16 | 4 | 9 | 13 | 29 |
| アンダークリアー | 45 | 28 | 73 | 23 | 26 | 49 | 122 |
| アンダードリブンクリアー | 15 | 29 | 44 | 10 | 12 | 22 | 66 |
| ドライブ | 15 | 23 | 38 | 27 | 25 | 52 | 90 |
| アンダードライブ | 31 | 15 | 46 | 9 | 13 | 22 | 68 |
| スマッシュ | 40 | 38 | 78 | 66 | 71 | 137 | 215 |
| プッシュ | 19 | 29 | 48 | 9 | 18 | 27 | 75 |
| ドロップ | 13 | 17 | 30 | 30 | 18 | 48 | 78 |
| ストップショット | 4 | 2 | 6 | 3 | 3 | 6 | 12 |
| アンダー カット | 8 | 3 | 11 | 6 | 8 | 14 | 25 |
| ヘアピン | 10 | 5 | 15 | 2 | 8 | 10 | 25 |
| クロスネット | 3 | 5 | 8 | 5 | — | 5 | 13 |
| クロスコート | — | — | — | 5 | 2 | 7 | 7 |
| 合　計 | 252 | 233 | 485 | 225 | 243 | 468 | 953 |

## 表1　男子ダブルスのフライト数

第6回国際バドミントン大会男子ダブルス　1977・2・16・甲府

| フライトの種類 | スウェーデン組 | | | 日本組 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | トーマス・キールストロム | ベント フローマン | 小計 | 梅野尾昌一 | 池田信孝 | 小計 | |
| ショートサービス | 17 | 24 | 41 | 13 | 8 | 21 | 62 |
| ロング サービス | 5 | 4 | 9 | 4 | 6 | 10 | 19 |
| ドライブサービス | 1 | 3 | 4 | 2 | 3 | 5 | 9 |
| ハイ クリアー | 3 | 1 | 4 | 1 | 4 | 5 | 9 |
| ドリブンクリアー | 2 | 2 | 4 | 7 | 6 | 13 | 17 |
| アンダークリアー | 22 | 11 | 33 | 27 | 42 | 69 | 102 |
| アンダードリブンクリアー | 4 | 3 | 7 | 9 | 17 | 26 | 33 |
| ドライブ | 11 | 7 | 18 | 14 | 18 | 32 | 50 |
| アンダードライブ | 10 | 4 | 14 | 3 | 11 | 14 | 28 |
| スマッシュ | 37 | 59 | 96 | 25 | 15 | 40 | 136 |
| プッシュ | 32 | 18 | 50 | 18 | 36 | 54 | 104 |
| ドロップ（ストップショットを含む） | 22 | 18 | 40 | 18 | 9 | 25 | 67 |
| アンダー カット | 8 | 6 | 14 | 4 | 5 | 9 | 23 |
| ヘアピン | 21 | 11 | 32 | 10 | 12 | 22 | 54 |
| クロスネット | — | 2 | 2 | 1 | 4 | 5 | 7 |
| クロスコート | 6 | 2 | 8 | — | — | — | 8 |
| 合　計 | 201 | 175 | 376 | 156 | 196 | 352 | 728 |

がエースになる割合を調べてみる必要があります。表3にそれを示します。表からさらに明快な答えが出ました。キールストロム選手はスマッシュ37本のうち16本もエースショットになっています。実にスマッシュの43%が決定打としてゲームをきめているのです。フローマン選手も59本中10本、17%の確率でエースにしています。日本選手は梅野尾選手が25本中4本で16%、池田選手が15本中3本と20%の率こそフローマン選手より良いのですが、スマッシュエース数としては日本組が7本、スウェーデン組は26本と大きく差が出ています。プッシュについても、キールストロム25%、フローマン17%、梅野尾6%、池田6%です。数で比較するとスウェーデン組13本対日本組3本となります。

以上のことから、男子ダブルスの試合は日本組がシャトルを上げさせられて打たれた形で進行したことが推察されます。

さらに分析を進めてスマッシュ、プッシュの滞空時間を調べてみましょう。表4がそれです。スマッシュの滞空時間をみると、キールストロム選手が最も短く0・37秒、次が池田選手で0・47秒です。二人供ネットの近くで打っています。試合を分析していると0・3秒以下になるとほとんどの選手がレシーブ不能になっています。選手の反射運動の限界に近づいているようです。

バドミントンのシャトルは打たれた直後が最も早く、飛行中に急速にスピードが遅くなります。バックバウンダーラインの近くから最も早いスマッシュを打っても相手コート中央部までゆくのに0・35秒はかかります。

平均速度でせいぜい100km/hが限界です。これも初速が早いので、相手の選手が打つ時にはかなり遅くなっています。キールストロム選手は、フライトの速い部分を有効に利用していることがわかります。同じことは、女子ダブルスで梅野尾悦子選手のショットに表われています。彼女はエースできるフライトが上ってくるまで、ひろいまくってじっと待っているようです。そしてチャンスと見るや一気にダッシュして急角度で落ちるすばらしいスマッシュでエースをとります。これが新幹線スマッシュといわれるショットなのでしょう。もちろん彼女の戦法も抜群のレシーブ力があってこそ活用できるのです。スマッシュショットそのものの速さは池田美加選手の方が速いようです。彼女の場合にはバックバウンダリーラインの近くからよく打つので、どうしても滞空時間が長くなり不利になるわけです。

## ●女子複の解析

### 数字に表われる作戦の妙

表2の女子ダブルスの結果をみると興味あることがわかります。アンダークリアーをみると梅野尾選手が最も多くなっています。パーセントで比較すると他の3人の選手の2倍近くです。またアンダーストロークをみても湯木・池田組よりかなり多いのが目につきます。一方、このワンストローク前のショットを見ると、例えば、湯木・池田組のスマッシュは137本です。この数字は何とサービスを除く全ストロークの32%に当る数字になります。これにドロップショット48本が加わります。対戦する梅野尾・植野組はアンダークリアー、アンダードライブ、アンダードリブニクリアーなどで拾いまくって応戦したようです。このような理由でラリーが長くなったのだと考えられます。

そして表3を見ましょう。表2でスマッシュ数の少ない梅野尾・植野組のエース率が、湯木・池田組の2倍になっています。梅野尾選手はエース率28%とスマッシュを打てば3本に1本はエースというすばらしい結果が出てきました。しかも、表4でわかるように、スマッシュショットの滞空時間は最も短くなっています。攻撃はチャンスがくるまでガマンしている戦法を裏づけています。

後に梅野尾選手に聞いたところ「相手のスマッシュはこわくないので拾いまくる作戦に出たのです」といっていました。この気持はサービスを見ると一目瞭然です。梅野尾・植野組のロングサービスが42本です。全サービスの76%、ドライブサービスを含めると何と87%がスマッシュを予想したサービスです。一方湯木・池田組はショートサービスが32本（84%）であったというきわめて対象的な結果になりました。

## ●分析2

### フライトの滞空時間

図3は、この2試合の中から取り出したフ

**表3　スマッシュ．プッシュにおける決定率**

**男子ダブルス**

| | キールストロム | フローマン | スウェーデン組小計 | 梅野尾(昌) | 池田(信) | 日本組小計 | 全選手合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| スマッシュ | 16本 43% | 10本 17% | 26本 27% | 4本 16% | 3本 20% | 7本 18% | 33本 24% |
| プッシュ | 8本 25% | 3本 17% | 11本 22% | 1本 6% | 2本 6% | 3本 6% | 14本 13% |

**女子ダブルス**

| | 梅野尾(悦) | 植野 | 小計 | 湯木 | 池田(美) | 小計 | 全選手合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| スマッシュ | 11本 28% | 6本 16% | 17本 22% | 5本 8% | 3本 4% | 8本 6% | 25本 12% |
| プッシュ | 2本 11% | 2本 7% | 4本 8% | 2本 22% | 1本 6% | 3本 11% | 7本 9% |

**表4　スマッシュ．プッシュの滞空時間**

**男子ダブルス**

（単位：秒）

| | キールストロム | フローマン | 梅野尾(昌) | 池田(信) |
|---|---|---|---|---|
| スマッシュ | 0.37 | 0.43 | 0.45 | 0.41 |
| プッシュ | 0.51 | 0.54 | 0.61 | 0.64 |

**女子ダブルス**

| | 梅野尾(悦) | 植野 | 湯木 | 池田(美) |
|---|---|---|---|---|
| スマッシュ | 0.43 | 0.43 | 0.45 | 0.46 |
| プッシュ | 0.60 | 0.68 | 0.74 | 0.61 |

注．時間値は全ショット数の平均値です。

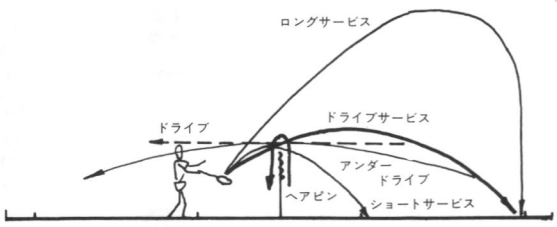



図1

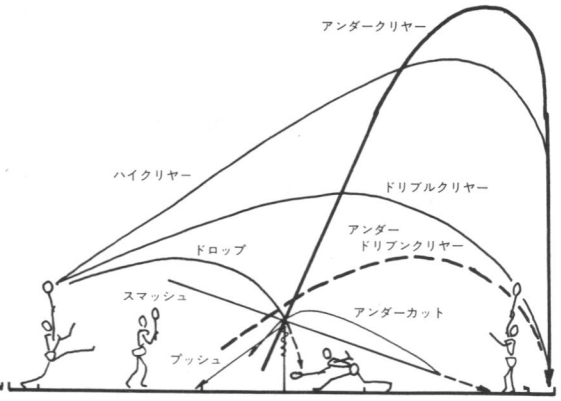
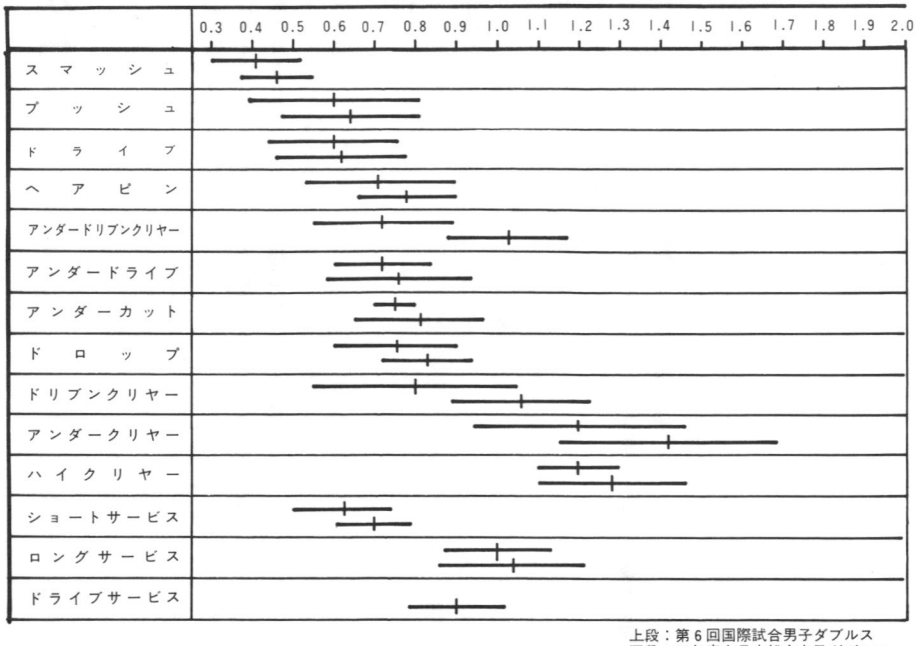



図2

図3 フライトの種類と滞空時間




上段：第6回国際試合男子ダブルス
下段：51年度全日本総合女子ダブルス

ライトの滞空時間値を示したものです。滞空時間といったのはシャトルの飛ぶ速さではないということを明確にしたいためです。例えばドライブショットで攻撃されたとき、ネットの近くでカットするか、またはコートのうしろの方でスピードが落ちてからレシーブするかによって、同じスピードで打たれたシャトルも受ける位置によって時間値が大幅に変ってきます。ですから図3の時間値は、選手によってシャトルがヒットされてから次の選手に再びヒットされるまでの空中にある時間を実際の試合の中から測定して図に示したものです。このことをよく理解していただきたいためです。

図の中の横の太い線は、それぞれの時間値の標準偏差値、中央部のたての線は平均値を示してあります。例えば、上段の男子ダブルスゲームにおけるスマッシュの速さ（滞空時間のこと）は平均0・41秒です。そしてこのスマッシュのうち、およそ70％が0・30秒から0・52秒の間に入っています。同様に下段の女子ダブルスのスマッシュは平均値で0・46秒と男子より0・05秒ほど遅いようです。そしてほとんどのスマッシュは0・37秒より遅く0・55秒より速かったと考えられます。

……というようにみていってください。

横の線が長い場合は同じ名のフライトでも打ち方やコースによって選手が時間調節をしているためだと思います。

詳しく見てゆくといろいろなことがわかってくると思います。参考にしてください。

## 全英選手権大会の詳細時間決まる

# 最終日は午後1時から

第68回全英バドミントン選手権大会（イングランド・バドミントン協会主催）の大会時間等が正式に発表となった。

会場は例年どおり、ウェンブレーのエンパイア・プール・アンド・スポーツ・アリーナで、3月15日から18日までの4日間、世界各国から一流選手を集めて行われる。

時間は次のとおり。

3月15日＝午後2時～午後10時30分

3月16日＝午後3時～午後10時30分

3月17日＝午後6時～午後10時30分

3月18日＝午後1時～午後5時

入場料は、日本と比べてそれほど高いということはなく、次のとおり。

3月15日　全席自由席で2ポンド（約1300円）、子供（16歳以下）は50ペンス（約325円）

3月16日　指定席は3ポンド70ペンス（約2400円）と3ポンド（約1950円）、自由席は2ポンド（約1300円）、子供は50ペンス（約325円）

3月17日と18日　全席指定席で、5ポンド（約3250円）、4ポンド50ペンス（約2925円）、3ポンド70ペンス（約2400円）、3ポンド（約1950円）、2ポンド10ペンス（約1365円）、1ポンド30ペンス（約845円）の6段階に分かれている。

日本選手の組合せ等、詳細は不明だが、湯木博恵選手（河崎ラケット）は第3シードになっているもよう。

## 昭和53年度日本バドミントン協会理事会・総会開かる

# いよいよ日本リーグ創設へ

日本バドミントン協会昭和53年度理事会・総会は2月18日、19日の両日開かれ、昭和53年度の大会日程などが決定した。

おもな決定事項は次のとおり。

**▼全日本社会人選手権大会の女子種目に年齢別を採用**

現在、全日本社会人大会には、多くの選手が参加し、女子種目においても幅広い年齢層にまたがるようになったため、とりあえず昭和53年度開催の第21回大会（滋賀県大津市）において、女子種目に30歳ダブルス、40歳ダブルスの2種目を採用することとなった。

**▼ナショナルチームの選手は国民体育大会に出場せず**

この件については昭和51年から検討を進めていたが、若手選手の育成と、ナショナルチームのハードスケジュール、国民体育大会の持つ都道府県対抗の精神を考え合せ、昭和53年度の第33回国民体育大会（塩尻市）から、ナショナルチームおよびその候補選手は出場しない旨申し合せた。

**▼日本リーグ創設**

わが国のバドミントン競技の向上と普及発展のため、バドミントン日本リーグを創設することとなり、日本バドミントン協会、実業団バドミントン連盟、学生バドミントン連盟からそれぞれ3名ずつの委員を選出して委員会を設け、検討のうえ、昭和53年5月28日の総会に上程することとなった。

昭和53年度大会日程および国際大会関係ニュースは次のとおりであるが、大会日程のうち日時や会場が抜けているものは未定のものである。

**◆第8回アジア競技大会**

大会は12月9日から20日までタイのバンコクで開催される予定であり、昨年12月3日バンコクでアジア競技連盟（AGF）の実行委員会が開かれた。

そこで同大会では19競技を実施することが決まり、バドミントンを含む左記の種目が発表になった。

アーチェリー、陸上、バドミントン、バスケットボール、ボクシング、自転車、フェンシング、サッカー、射撃（ライフル、クレー）、水泳（水球を含む）、卓球、バレーボール、テニス、重量挙げ、ボウリング、ホッケー、レスリング、ヨット、体操。

これに伴い、日本バドミントン協会では、9月15日から17日までアジア競技大会国内予選会を東京で開く準備を進めている。

**◆ユーバー杯大会アジア地区予選会**

第8回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）アジア地区東側予選で、日本は韓国に勝ったが、西側勝者のマレーシアとマレーシアで対戦することが本決りとなった。

日時は4月8日、会場はクア

# 社会人大会女子に年齢別できる

ラルンプールのナガラスタジアムの予定である。

マレーシア女子は、全英選手権、世界選手権ともにこれといった選手派遣は行っておらず、順当に日本がインターゾーン進出を果たすものと思われる。

**◆日中親善競技大会**

本年度中に開催する予定で両国の日程を調整してきたが、年度内の開催は実現できず、6月27日から7月11日までの間、中国チームが滞日することとなり、この間に各地で競技会を開くことになる。

現在のところ、競技会日程、開催地とも未定であり、近日中にツメの段階にはいる予定。

**◆トマス杯**

本年開催されるトマス杯大会地区予選に、日本はオーストラレイシア（豪亜）ゾーンから出場することとなった。

アジアゾーンに比べ、オーストラレイシアゾーンは、強国が少なく、インターゾーン出場の可能性が強い。

このオーストラレイシアゾーン予選会は9月末日までに1回戦はニュージーランド、決勝はオーストラリアと対戦する予定であるが、日時、場所ともに未定である。

**◆トマス杯監督決まる**

トマス杯大会日本チームの監督は板垣隆房氏に決まった。板垣氏は日本協会常務理事、立教大学OB、板垣商店経営、昭和13年生れであり、現役時代は単複ともに全日本のチャンピオンとなり、トマス杯代表にもなっている。これにより板垣氏はユーバー杯大会全日本チーム監督とあわせ、男女ともにリードしていくこととなった。

コーチについては現在調整中である。

**◆欧州派遣団決まる**

**★第26回デンマークオープン・第68回全英選手権派遣選手団**

▽団長・小飼栄一▽監督・板垣隆房▽コーチ・天野博江▽選手・池田信孝、栂野尾昌一、飯野佳孝、銭谷欽治、土田証雄、湯木博恵、徳田敦子、近藤小織、高田幹子、植野恵美子、米倉よし子

# ナショナルチームは国体に出場せず

## 昭和53年度大会日程決まる

# 日中大会は6月末から

▽国内大会

第9回全日本女子チャンピオンズトーナメント兼ユーバー杯選手団壮行試合（4月）

第28回全日本実業団バドミントン選手権大会（6月13日～18日・東京）

第29回全国高等学校バドミントン選手権大会（8月3日～8日・会津若松市）

第17回全日本教職員バドミントン選手権大会（8月10日～14日・仙台市）

第8回全国中学生バドミントン選手権大会（8月18日～20日・名古屋市）

第21回全日本社会人バドミントン選手権大会（8月26日～29日・大津市）

全日本バドミントンオールスターダブルス'78（9月10日・東京）

第8回アジア競技大会バドミントン競技選手選考会（9月15日～17日・東京）

第33回国民体育大会バドミントン競技（10月16日～19日・塩尻市）

第29回全日本学生バドミントン選手権大会（10月16日～22日・名古屋市）

昭和53年度全日本総合バドミントン選手権大会・個人戦（11月14日～19日・東京）

昭和53年度全日本総合バドミントン選手権大会・団体戦（昭和54年2月17日～18日・東京）

第7回全国高等学校選抜バドミントン競技会（昭和54年3月大会（6月27日～7月11日）

日韓高校バドミントン交歓競技大会（8月20日～25日・関東京浜地区）

第8回国際バドミントン競技大会（昭和54年1月中旬～下旬）

▽国際大会（国外）

第8回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会アジア地区決勝戦（4月8日・クアラルンプール）

第3回アジア招待バドミントン競技大会（4月15日～25日・北京）

第8回世界女子バドミントン選手権（ユーバー杯）大会（5月13日～21日・ニュージーランド・オークランド）

第8回アジア競技大会（12月9日～20日・バンコク）

第27回デンマークオープンバドミントン選手権大会（昭和54年3月7日～10日・コペンハーゲン）

第69回全英バドミントン選手権大会（昭和54年3月21日～24日・ウェンブレー）

# オールジャパンは11月に開催

▽国際大会（国内）

第6回日中バドミントン競技

# 栂野尾・植野両選手に功労賞

文部省は、昨年12月13日、昭和52年の「スポーツ功労者」20人を別掲のとおり発表した。これまでスポーツ功労者はオリンピックの三位までの入賞者とその指導者、世界記録を更新した者に限られていたが、今回新たに、①世界的規模の大会での優勝者②その指導者、の二項目が加えられ、その新規定による第一回目の表彰ということになった。

バドミントンでは、世界選手権と全英選手権のダブルスで優勝した栂野尾悦子（ヨネックススポーツ）と植野恵美子（四条畷学園短大）の二選手が選ばれた。

そして12月17日、東京霞が関の国立教育会館で表彰式が行われ、そのあと首相官邸で行われた福田首相のレセプションに出席した。



福田首相、森官房副長官と一諸に

**●スポーツ功労者**

**◇優勝者**

▽河野満（青森県庁・世界卓球選手権男子シングルス）▽栂野尾悦子（ヨネックススポーツ・世界バドミントン選手権女子ダブルス）▽植野恵美子（四条畷学園短大・同）▽細谷治朗（日体大助手・世界重量挙げ選手権52キロ級）▽佐々木禎（稲取高教員・同57キロ級▽バレーボール・ワールドカップ代表女子チーム＝前田悦智子（三洋電機）松田紀子、白井貴子、高柳昌子、荒木田裕子、金坂克子、吉田真理子、矢野広美、江上由美（以上日立製作所）横山樹理、木原理枝子（以上ユニチカ）須藤佳代子（富士フイルム）▽岡田啓治（久留米商・世界空手道選手権型の部）

**◇指導者**

▽山田重雄（日立製作所・バレーボール・ワールドカップ代表女子チーム監督）

# 全国会員数発表

昭和52年度の日本バドミントン協会会員登録数（都道府県別）が別表のとおり発表された。

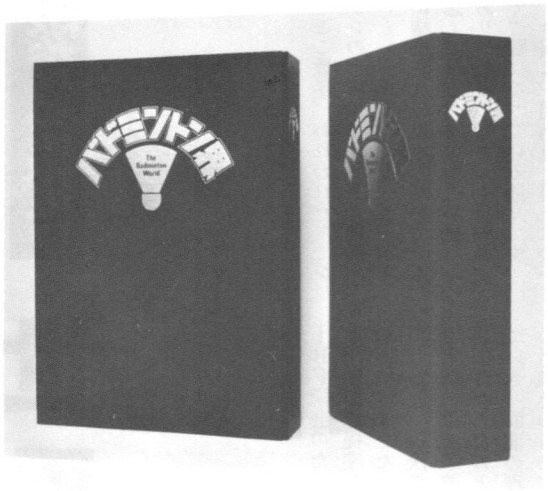
最も多いのはやはり東京だが、千名以上のところが、47都道府県のうち14と三分の一にも満たないのはさみしい。

宮城県は協会創立30周年を迎えたばかりだが、さすがに116名と多い。また、先のオールジャパンで女子チャンピオンとなった近藤選手の出身地、岡山県も2535名と非常に多い。

## 昭和52年度都道府県別会員登録数

昭和52年12月31日現在

| 協会名 | 一般 | 高校 | 小中学 | 合計 | 協会名 | 一般 | 高校 | 小中学 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 652名 | 387名 | 180名 | 1,219名 | 滋賀 | 171名 | 527名 | 名 | 698名 |
| 青森 | 200 | 580 | 160 | 940 | 京都 | 451 | 450 | | 901 |
| 岩手 | 202 | 95 | | 297 | 大阪 | 832 | 2,665 | | 3,497 |
| 宮城 | 314 | 872 | | 1,186 | 兵庫 | 793 | 1,365 | 958 | 3,116 |
| 秋田 | 146 | 342 | 54 | 542 | 奈良 | 70 | 341 | 148 | 559 |
| 山形 | 50 | 200 | | 250 | 和歌山 | 267 | 131 | | 398 |
| 福島 | 232 | 666 | | 898 | 鳥取 | 162 | 100 | 295 | 557 |
| 茨城 | 177 | 90 | | 267 | 島根 | 79 | 160 | | 239 |
| 栃木 | 229 | 430 | 80 | 739 | 岡山 | 458 | 935 | 1,142 | 2,535 |
| 群馬 | 244 | 244 | 78 | 566 | 広島 | 245 | 286 | 87 | 618 |
| 埼玉 | 654 | 440 | | 1,094 | 山口 | 450 | 200 | | 650 |
| 千葉 | 217 | 1,186 | | 1,403 | 香川 | 154 | 404 | | 558 |
| 東京 | 3,045 | 2,800 | | 5,847 | 愛媛 | 140 | 188 | | 328 |
| 神奈川 | 175 | 2,000 | | 2,175 | 徳島 | 85 | 246 | | 331 |
| 新潟 | 584 | 1,157 | | 1,741 | 高知 | 30 | 110 | | 140 |
| 長野 | 100 | 100 | | 200 | 福岡 | 889 | 318 | 242 | 1,449 |
| 山梨 | 35 | 128 | | 163 | 佐賀 | 99 | 40 | | 139 |
| 富山 | 276 | 685 | | 961 | 長崎 | 168 | 150 | | 318 |
| 石川 | 130 | 502 | | 632 | 熊本 | 294 | 690 | 280 | 1,264 |
| 福井 | 112 | 104 | | 216 | 大分 | 151 | 17 | | 168 |
| 静岡 | 250 | 475 | | 725 | 鹿児島 | 88 | 180 | 51 | 319 |
| 愛知 | 1,559 | 1,158 | 507 | 3,224 | 宮崎 | 218 | 254 | 10 | 482 |
| 三重 | 135 | 460 | | 595 | 沖縄 | 68 | 260 | | 328 |
| 岐阜 | 450 | 1,006 | 765 | 2,221 | 合計 | 16,532 | 26,124 | 5,037 | 47,693 |




バドミントン界専用

# 合本バインダー

定価・500円

## 穴あけ不要・かんたんに・美しく保存

「バドミントン界」は読捨ての雑誌ではありません。毎月きちんと揃えて保存すれば、バドミントンの百科事典となるものです。

そのために本誌1年分12冊を、穴をあけたり、ノリを使ったりすることなく、簡単に保存しておくことのできる専用合本バインダーができました。

今回製作したものは、表紙の新しいデザインにあわせた写真のようなシャレたものです。

表紙は濃いブルーの特殊レザーを使用し、本誌と同じデザインを銀パクで押したものです。丈夫で長い間の保存に耐えることができます。

専用合本バインダーは1冊定価500円ですので、ご希望の方は下記の送料を加えて、本誌巻末に綴じ込みの振替用紙に必要事項を明記のうえ、お近くの郵便局からお申し込みください。

**（送料1冊＝300円、3冊まで600円、4冊以上700円）**

**バドミントン界編集部**




## カレンダーが残りわずかとなりました

78年版バドミントンカレンダーは、おかげさまで大好評のうちにほぼ売切れとなりました。

新しいデザインや製本形式も多くの読者の皆様からご好評を得ることができました。

79年版は全ページカラーにする予定で撮影を進めております。

現在のところまだ少し残部がありますので、カレンダーご希望の方は、お早めに本誌巻末綴じ込みの振替用紙に必要事項ご記入のうえお申し込みください。

一部送料とも1200円です。

緊急報告

# 世界を二分するな

## 中国・台湾問題が根源

日本バドミントン協会常務理事
国際委員長・IBF理事
宮永武司

ここ数年、われわれバドミントンの世界ではIBF（国際バドミントン連盟）が一九三四年に結成されて以来、初めてとも思えるほど目まぐるしい動きがあり、読者の皆さんも新聞紙上でご覧になっている通りです。

今回は、問題点と現状について、できるだけ詳しく経過をたどりながらお知らせします。

ただ、中国・台湾の問題については政治的なものとの絡みがありますので将来についての断言はできません。

「中国の加盟と台湾除名問題」は、皆さんご存知の通り、これは一番大きな問題であり、またなかなか解決が困難な問題です。一九七三年に、そう今から五年前のIBFの総会で、中国がIBFに加盟申請をしました。この時からこの問題は始まり、中国は既にその時IBFのメンバーであった台湾の除名を要求し、日本、アジアの諸国はこぞってIBF総会のたびに、台湾除名・中国加盟を提案し、世界に呼びかけ続けました。

しかし、採決の結果は常に提案者側の敗北に終わり、アジア諸国はだんだんと態度を硬化していき、敗北の理由は、IBFの組織そのものに原因があるのではないかと追求し始め、IBF総会のシステムと、当時IBFの名誉主事（現在、終身名誉副会長）のシェーラ氏にあるとし、一加盟国一票制採用を強く要求するとともに、シェーラ氏のやり方を猛烈に批判しました。

が、結果はアジア諸国にとって満足する状態にはなりませんでした。そこで一九七六年、IBF史上初めてアジアIBF総会がバンコクで開催されることになった時、アジア諸国はABCとして今度の総会で要求が通らなかったら、ABCが中心となりIBFを脱退して、新世界連盟を結成する用意があることを表明しました。

IBF側も、当時の会長ワイアット氏を中心として対策を練り「台湾はテリトリーを明示した上で加盟申請書を一九七六年一二月三一日までにIBFに再提出すること。また、中国も一九七三年に出された加盟申請が電報であったし、時間も経過しているので台湾同様一二月三一日までに提出するものとし、その上で次回一九七七年総会でこの問題を単純多数決で決定したい。（除名は、総会での総投票数の四分の三以上を必要とするよう規則で定められている）」という議長裁定を下したのです。

これは、その場で台湾を除く全ての国が賛成したが、インドのハイデラバドで一九七六年一一月に行なわれたABCの会議で、中国から「ワイアット裁定は一中一台という形になっており認められない」と提言され、ABCはそれを採択したのでおかしな状態になってきたのです。

と同時に、台湾もこのワイアット裁定を無効とする訴えを英国の裁判所に提出し、いよいよ裁判の形で争う方向に持ち込まれました。

そしてアジアでは、一九七七年二月にまた香港で会議を開き、次回総会（スウェーデンのマルメで一九七七年五月開催）で台湾除名がなされない場合は、新世界連盟としてWBFを発足させるよう、その新連盟の規約骨子の作成にとりかかりました。

一方、裁判はワイアット氏（バンコク総会で会長をスウェーデンのモリーン氏に譲った）を中心にIBF側も、台湾の提訴を受けて何回か公判が開かれました。

このような状態のもとで、ついに一九七七年五月マルメで総会が開催されました。四四ヵ国加盟協会から七十人の代表が参加し（日本からは筆者と、ロンドン在住の日本バドミントン協会国際委員である山本洋彦氏が参加）、総投票数八三票でありました。議長のモリーン氏はこの問題を、ワイアット裁定を正当化することから始めたので、台湾代表がその問題を裁判と絡めて発言し、初めから総会は混乱、約二時間の激論が闘わされた末、モリーン会長は単純多数

# "中立" 日本の立場は?

決でこれを採択すべく投票を命じたのです。結果、遂に台湾は除名という形になり、会場へ不当だと声明を残して退場してしまいました。

そして五月六日(総会開催日)同日付で中国から加盟申請書が出され会場に持ち込まれました。ただし、この申請書は古い形式であったので、再提出するよう翌日の理事会で決められ、IBFからその旨を連絡されました。

問題はこれで解決されたかに見えたところ、七月四日になりロンドンの英国高等法務院で裁判の判決が下され「台湾除名が法律的に無効であり、それをこのまま認めるようであれば、IBFのイングランド、アイルランド、ウェールズにおける活動を停止し、さらに会長以下役員の活動も、その国内では停止される旨命令する」という結果になって、IBFは七月三〇日スコットランドのグラスゴーで緊急理事会が持たれました。

緊急であったためかアジアからの参加は筆者だけでしたが、その席上で「IBFにおける最高の議決機関である総会で決められたことがくつがえされることはおかしいし、もしそうなればIBFの存在も問題になってくる(アジア諸国も大体同様の主旨であった)」という筆者の発言は認められず、この問題は九月二九日に臨時総会を行ない、正式に除名条項に照らして決議し直すことに理事会決定されました。

この決定に対してABCは、九月一五日香港において常任理事会を開催し(日本からは協会理事長小口政雄氏と筆者が参加、その他にモリーンIBF会長もその席に現われ、状況説明を出席者に行なった)、IBF理事会の決定はおかしいし、総会で決められたことが一国の裁判所によってくつがえされるということは認められないと決議しました。

そして、九月二九日ロンドンにおいて問題のIBF臨時総会が開催されました(日本からは私が参加)。席上、ABCを代表してイランのアイボリー氏が、冒頭から臨時総会そのものが違法であり認められないと一時間にわたる熱弁をふるい、アジア諸国は投票をボイコットする旨声明しました。

日本とインドネシアは理事会の議を経て、正式な招集方法で開催された臨時総会は、現在のIBF規約上何ら問題ないので投票に参加しました。

この総会には二つのメイン議題があったが、一つは勿論この台湾除名問題で、アジア諸国(日本、インドネシアを除く)のボイコットのもとで投票が行なわれました。(無記名での秘密投票制がとられた)

結果は、総投票数五五、うち台湾除名賛成一九、反対三六で規定票数が獲得できずに、台湾は再びメンバーの地位を確保することになりました。(ボイコットの一七票があっても、規約により否決されたことになる)

ABCは当然この結果に不満を持ち、翌九月三〇日臨時常任理事会を開き、ABCが中心となりWBFを結成する準備にとりかかり、規約の整備にはいりました。

この会議では、インドネシアと日本がIBFから脱退はしないし、WBFを急いで結成することに反対はしたものの、マレーシア、シンガポール、香港、中国、タイ、イラン等はもはや待てないという強い姿勢で、一一月にクアラルンプールでWBFの準備委員会を再度開催することに決定しました。

日本としては不完全な形でのWBF結成には反対であると同時に、現状ではIBFを脱退する意志がないので、この会議には欠席しました。

その後、この会議でABCとしてはWBFを結成する方向で進み、WBFができたらIBFを脱退し、WBFに加盟するようになったが、これは総会での決議を必要とするので、そこで正式決定されることになりました。

一方IBFでも、特に会長以下理事会メンバーは、WBFの結成はできることなら阻止したい意向で検討を重ね、IOCとの関係でオリンピック種目としてのバドミントンの地位、さらに一部ヨーロッパのトッププレーヤーによるオープン化(ジョイナーというイギリス人が中心となってできつつある選手協会が推進)を考えるとどうしても台湾除名・中国加盟によるWBF結成阻止が必要になってきたのです。

世界を二分してはならないという錦の御旗のもとに、会長以下各理事、各国代表による活発な動きがあったものの、いつ問題が解決するかは見当がつきませんでした。そして二月一〇日から一二日にかけてオランダのオバヴィンでIBF各委員会・理事会が招集されました。

アジアからはインドネシアのスディルマン、スハルソ両氏と私だけが出席し(インド、タイの理事は欠席だった)、この理事会で「台湾は正式名称としてROCを取ることとし、それができないならIBFから除名する。これはこの理事会として直ちに台湾に通知するとともに、五月に予定されるIBF総会の議題としても理事会提案する」と決定がなされました。

これは直ちにABC会長にも伝えられたが、これを受けて二月二五・二六日、ABC臨時総会が香港で開催されるが、今後の行方が注目されます。

最後に、一日も早い夜明けが訪れる日を待ってやまないのは筆者一人でなく、日本のいや、世界のバドミントン関係者全員の願いであることはいうまでもありません。

# 第6回全日本実業団学生選抜大会団体戦

# 男子はカワサキが初優勝 女子は日女体大が三回目

大会前から話題を投げかけていた、第6回全日本実業団・学生選抜大会（団体戦）は、2月11・12日の両日、東京・板橋区立体育館で開催されました。

常にバドミントン界をパイオニア精神で引っ張る実業団連盟の打ち出した今回のアイデアは、(1) カラーユニフォーム着用の許可。(2) 1試合につき30秒の作戦タイムを採用。(3) 線審は黄色の小旗でイン・アウトを表示する、の三点。

選手がピンチに追い込まれると、味方ベンチから監督が飛び出し、何やら二言三言ささやく場面もしばしば。

カラーユニフォームは、着用する選手がまったく見られず、空振りの恰好に終わりました。

黄色の手旗を両手に持った線審のゼスチャーは遠目にも鮮やかで、「旗は1本でもいいのではないか」の声も聞かれましたが、まずは成功といえましょう。

試合の結果は、男子は学生陣がシーズンオフのためか精彩を欠き、いずれも1回戦で敗退し、河崎ラケットが昨年の実業団に続き、今大会も銭谷・中井の活躍によって初優勝に輝きました。

女子は、実業団優勝のサントリーが、2回戦の対日本女子体育大戦でダブルスを連取してから敗れるという番狂わせが起き、波に乗った日本女子体育大が、宿敵日本体育大を決勝で降し、2年ぶり3回目の優勝を果たしました。

▽男子1回戦

- 河崎ラケット 5 (単3—0, 複2—0) 0 日本体育大
- ヨネックス 3 (単2—1, 複1—1) 2 日本大
- 電電東京 3 (単1—2, 複2—0) 2 法政大
- 高岡市役所 3 (単1—2, 複2—0) 2 中央大
- 銭谷・中井 2 (15—3, 15—11) 0 ヨネックス 西野・中山

▽同準決勝

- 河崎ラケット 3—1 ヨネックス
- 電電東京 3—1 高岡市役所
- 池田・尾崎 1 (15—9, 9—15, 15—11) 2 田所・野本
- 銭谷・中井 2 (15—9, 15—9) 1 今井・斉藤

▽決勝

- 池田・尾崎 2 (15—8, 15—6) 0 米沢・原
- 田所・野本 0 (8—15, 5—15) 2 牧野・今泉
- 今井・斉藤 1 (7—15, 15—9, 6—15) 2 梅野尾・辻
- 中井・銭谷 2 (15—5, 15—3) 0 中山・辻

▽同決勝

- 河崎ラケット 3—1 電電東京
- 池田・尾崎 2 (11—4, 15—15, 15—2) 1 今泉・牧野
- 田所・野本 2 (15—2, 15—3) 0 牧野・今泉
- 銭谷・中井 2 (15—6, 15—3) 0 辻・梅野尾

▽女子1回戦

- 日本体育大 5 (単3—0, 複2—0) 0 ヨネックス
- 四条畷短大 4 (単2—1, 複2—0) 1 河崎ラケット
- 日本女子体大 5 (単3—0, 複2—0) 0 旭光学益子
- サントリー 5 (単3—0, 複2—0) 0 東京女子体大

▽同準決勝

- 日本体育大 3—1 四条畷短大
- 関根・大塚 2 (15—5, 15—3) 0 寺坂・楠田
- 徳永・植野 0 (13—18, 2—15) 2 植野・川
- 大嶌・石川 2 (12—10, 11—2) 0 石川・前川

▽決勝

- 日本女子体大 3—2 サントリー
- 米倉・石田 1 (10—15, 7—15, 15—3) 2 秋本幸谷
- 近藤・渡辺 0 (3—15, 2—15) 2 徳田・高田
- 米倉・渡辺 2 (12—10, 9—0) 0 秋本八
- 近藤・渡辺 2 (15—7, 15—5) 0 徳田・枝
- 米倉・石田 2 (15—5, 13—15, 15—1) 1 関根・大塚
- 日本女子体大 3—0 日本体育大

## ●オランダ・オープン

# 飯野・土田が活躍

2月11・12日、オランダのベイバイクで行なわれたオランダ・オープン選手権大会に、日本から参加した飯野佳孝（ヨネックス）、土田証雄（電電東京）組は、男子ダブルス準決勝でデンマークのプリ・ヘレディ組に1（15—5、13—15、9—15）2と接戦の末敗れ、惜しくもベスト4にとどまった。

シングルスでは、飯野が準々決勝の対スティーブンス（イギリス）戦を棄権。

土田は1回戦で、強豪ジョンソン（スウェーデン）に0（6—15、3—15）2のストレートで敗退した。

## ●岡山県新人大会

# 倉敷工、山陽女が優勝

昭和52年度の岡山県高等学校バドミントン新人大会（団体戦）が、2月4・5日に行なわれました。

昨年のインターハイの開催地らしい盛り上がりをみせ、男子は倉敷工が、第1シードの水島工を倒して優勝。女子は順当に、山陽女が決勝までの全試合にストレート勝ちをおさめ優勝しました。

▽男子準々決勝
水島工業 3—0 玉野商業
倉敷天城 3—1 備前高
倉敷工業 3—0 東岡山工
西大寺高 3—1 岡山朝日
倉敷中央 3—2 瀬戸高

▽同準決勝
山陽女子 3—0 西大寺高
倉敷天城 3—0 倉敷中央

▽同三位決定戦
倉敷南高 3—2 総社高

▽同準決勝
水島工業 3—1 倉敷天城
倉敷工業 3—1 西大寺高

▽同三位決定戦
倉敷天城 3—1 西大寺高

▽同決勝
倉敷工業 3—1 水島工業

▽男子Bブロック準決勝
水島工業 3—0 矢掛高
金川高 3—0 西大寺高

▽同決勝
金川高 3—2 水島工業

▽女子準々決勝
山陽女子 3—0 津山商業
西大寺高 3—1 児島第一
倉敷天城 3—0 総社高
西大寺高 3—0 倉敷中央

▽同準決勝
山陽女子 3—0 倉敷天城
倉敷南高 3—0 西大寺高

▽同決勝
山陽女子 3—0 倉敷南高
西大寺高 3—0 倉敷中央

▽女子Bブロック準決勝
西大寺高 3—0 津山商業

## ●第4回全日本家庭婦人バドミントン大会

# 桜ケ丘、芙蓉、敦賀バードに栄冠

旧聞に属しますが、第4回全日本家庭婦人バドミントン大会（11月17・18日、於・大阪市中央体育館）の結果をお知らせいたします。

▽Aブロック準決勝
東大阪MBC 2—0 北海道シャトル
門間大西 2（15—3、15—0）島中山口
村井諏訪 2（15—5、15—5）0 白倉永井
大阪桜ヶ丘 2—1 奈良春円クラブ
池田御前 2（15—9、17—14）0 北尾山口
宿里坂口 0（0—15、11—15）2 土奄石川
広瀬小林 2（15—5、15—9）0 浅利小山

▽同決勝
大阪桜ヶ丘 2—1 東大阪MBC
池田御前 2（15—7、15—6）0 諏訪村井
宿里坂口 0（4—15、6—15）2 門間大西

▽Bブロック準決勝
福岡芙蓉クラブ 2—0 神奈川ユーバー
吉田原 2（15—2、18—16）0 坂井馬場
宮地財部 2（15—2、15—3）0 石橋浜田
東京BI G7 2—0 大阪門真クラブ
富田元岡 2（15—8、15—2）0 中島小山
神島崎山 2（15—6、15—8）0 宮崎木村

▽同決勝
福岡芙蓉クラブ 2—1 東京BI G7
宮地財部 2（15—5、15—7）0 千川遠藤
今堤村 0（7—15、12—15）2 富田元岡
吉田原 2（15—13、15—12）0 崎山竹内
敦賀バードクラブ 2—0 長崎水鳥クラブ

▽Cブロック決勝
広瀬小林 2（15—4、15—7）0 下川溜
山口西村 2（15—3、15—1）0 松尾田中
柿木稲川 2（15—1、15—1）0 毛利越智
植木藤田 2（15—10、15—4）0 江口野中
山田大迫 2（15—6、15—5）0 新本中野

▽同決勝
敦賀バードクラブ 2—0 千葉クラブ
西村山口 2（15—12、15—4）0 植木藤田
柿木稲川 2（15—2、15—4）0 山田大迫

## おわび

この大会の模様は、以前に1月号に特集しますと予告しましたが、記録の到着が大幅に遅れたため特集を組むことができなくなりました。前記の記録掲載のみにとどめますのでご了承ください。




## ゆとりを取りもどしたい、ゆたかさを見直したい。

楽しいことがあったとき、うれしいハプニングが起きたとき、いつものテーブルに1本のワインをご用意下さい。
サントリーワイン＜デリカ＞スペシャル。文字通り、ちょっと特別の、よそゆきの気分のテーブルにぴったりのワインです。口あたりのまろやかな赤、きりりと爽やかな白——だんらんの食卓をより豊かに盛りあげていただきたい、そんな願いをこめてつくりあげました。ぶどうの芳香と風味がひろがる秀作です。

Suntory
サントリーワイン
デリカ

サントリーワイン〈デリカ〉赤・白・ロゼ720mℓ各600円、中瓶360mℓ各330円

サントリーワイン
〈デリカ・タイム〉
赤・白・ロゼ
1000mℓ……各800円
500mℓ……各450円
200mℓ……各200円
●価格はいずれも標準的な小売価格です。




製造・販売
サントリー株式会社

# 汗を吸いとり 素手の感触!!

**デザイン鮮やかスポーツ・グローブ**

全く新しいアイデアのGLOVEが出来た。これは、グリップを強調し、保持力を上げ、手の平の汗を吸収する目的で生れた。通常の手袋のように、素手の感触を失ったり、一瞬のシャトルのショックに反応する神経の鋭さをそこなったりしない。

この機能は日・英・米の特許をとっている。

SPORTS GLOVESの、もう一つの大きな特徴は、ざん新なデザインだ。試みに数十人の練習場で、標準レンズをつけた35ミリカメラで二〇mの距離から撮影した、モノクロの密着写真ですらSPORTS GLOVESをつけた選手のグリップは鮮やかに、そのシャープなデザインを見せている。

一見して、はっきりとSPORTS GLOVESと判るデザインが、新聞・雑誌のスポーツ報道写真で、この春から見られるだろう。



# SPORTS GLOVES®

**¥980** (送料¥100)

## バドミントンにグローブを!

素手の握りの感覚をより強調した上、人造セーム皮が手の平の汗を吸収します日・英・米の特許製品。石けん、中性洗剤で洗たくが出来ます。右手用、左手用があり、2枚入りパッケージです。Ⓛサイズ、Ⓢサイズ、右手、左手用と指定の上、「バドミントン界」と記入して、郵便振替 横浜 6958 に御送金下さい。すぐ発送します。

松永商品開発研究室

〒248 鎌倉市佐助一の8の18

## 募集します!!

バドミントン界編集部

**①クラブ紹介**

学校、地域、職場など、あなたのクラブを本誌で紹介してください。原稿用紙にタテ書きで、一行二〇字×一五〇行程度。必ず写真を添えてください。

**②決定的瞬間**

プレー中の写真を送ってください。大きさはキャビネ判、モノクロに限ります。

**③作文**

テーマは、「私とバドミントン」。原稿用紙にタテ書きで、四〇〇字詰め一〇枚以内。しめ切りは昭和五三年五月末日。

①クラブ紹介と②決定的瞬間は、順に誌上に掲載させていただきます。③は応募作文を選考のうえ、秀作五篇、佳作五篇を選び、秀作を誌上に掲載させていただきます。また採用の方には、記念品をお送りいたします。なお、応募作品はいずれもお返しできませんのであらかじめコピーをおとりください。

## 年間購読のおすすめ

バドミントン専門月刊誌「バドミントン界」は、一般の書店では販売しておりません。

購読ご希望の方は、編集部あて年間予約購読をお申し込みください。

バドミントン界は一部定価300円ですが、年間予約購読をお申し込みになりますと、一年間3600円のところを3000円に割引となります。さらに日本バドミントン協会登録会員の方は、2800円となります。

お申し込み方法は簡単です。本誌巻末とじ込みの振替用紙に必要事項明記のうえ、代金をそえてお近くの郵便局からお申し込みください。毎月十五日に発行と同時にお送りいたします。

正確にお届けできますように、住所・氏名はかい書ではっきりと、また、寮・アパート・マンション等にお住いの方は、室番号も明記してください。郵便番号もお忘れなく。

バドミントン界一年分を簡単に保存できる便利な合本バインダーは一冊500円（荷造送料一冊まで300円、三冊まで600円、四冊以上700円）です。

## 編集室から

◆国際・東京大会は久し振りに代々木第2体育館が超満員になり、熱気のある大会となりました。銭谷欽治選手とデルフスの試合が見られずガッカリしたファンも多かったことでしょう。そのかわりといっては変ですが、植野恵美子さんと米倉よし子さんが優勝して、全英へ、ユ杯へ明かるい話題を提供してくれました。今後の活躍に期待したいものです。

◆風雲急をつげる国際情勢は、宮永国際委員長のレポートにある通りですが、2月20日の新聞によりますと「IBFは崩壊を余儀なくされるだろう」とのABCテー・ジン・スイ秘書長（マレーシア）の談話がはいり、いよいよ大詰めの局面を迎えたようです。関係ニュースにご注目ください。

◆国内では、日本協会、実業団、学連が一体となって〝日本リーグ〟結成が年内に行なわれる模様です。実業団と学生からなる日本リーグは初の試みで、また一つ楽しみがふえそうです。

◆2月2日に飯野佳孝選手と陣内裕子さんが、17日には土田証雄選手と池田美加さんがめでたくゴールインしました。これで栄養満点の食事（？）を毎日食べられるのですから、これからは体力不足に悩まされることはないようです。次号に結婚披露宴のスナップなどを掲載いたします。お楽しみに!!

バドミントン界　通巻第101号　1978年3月号　定価 300円

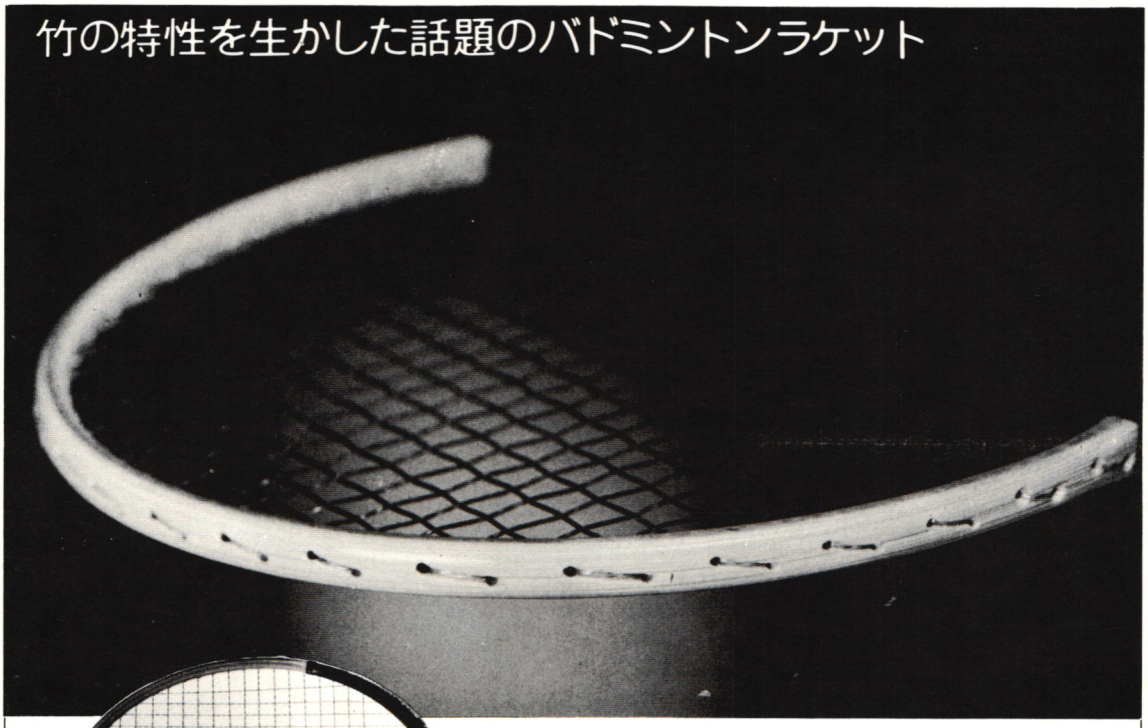
©1978　無断転載を禁ず

昭和53年3月15日発行
編集人／赤星　三樹
発行人／秦　浩

発行所・日本バドミントン協会
郵便番号 150 東京都渋谷区神南1－1－1　岸記念体育会館
電話　03－467－3111（代表）内線351
振替　東京5－9525（バドミントン界編集部）

# うなる打球/格調のバンブー

竹の特性を生かした話題のバドミントンラケット

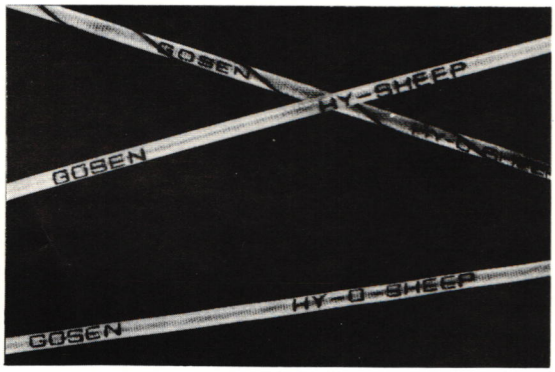




## Hy-Thomas

No. B45 ハイ・トーマス(バンブー) ￥4,500　★最高級選手用ロングテーパーシャフト フレーム・カバー付

## 最後まで勝ち抜くもの/品質保証のビッグなガット



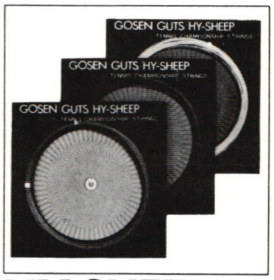




**HY-O-SHEEP**

No. 1090/1091 ハイ・オー・シープ ￥600

油入特殊ガット最高級品選手用(アンバー・青スパイラル)




**HY-SHEEP**

No. 1080 ハイ・シープ　￥400

選手用(アンバー・赤・青)

株式会社ゴーセン
■本　社●大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816 代
■東京支店●東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576 代
■福岡営業所●福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247 代

月刊「バドミントン界」3月号　昭和五十三年三月一日発行（毎月一回十五日発行）
発行所　東京都渋谷区神南一ノ一ノ一　日本バドミントン協会　定価三〇〇円




# チャンスが来たぞ。

世界の一流プレイヤーが使っているヨネックスのインターナショナル製品を抽選で、10,000名の方にプレゼント。

●下記のヨネックス製品をおもとめください。
**ラケット**＝B1000からB9300までのラケット。
**ウエア**＝日本バドミントン協会推せんのすべてのウエア。そのほかウォームアップ、トレーナー、パーカー、ウインドブレーカー。
**バッグ**＝No.350 No.351 No.352（A・B） No.354 No.355 No.356 No.357 No.359（以上該当商品）

●抽選で10,000名の方に左の商品のうち、どれか1点をプレゼント。
これらの商品はイギリス、オランダ、スウェーデン、デンマークなどの国々で人気の高いヨネックスのインターナショナル製品です。

●ご応募の方法
おもとめになったヨネックス製品（該当商品）についている応募ハガキに、おもとめの製品の価格シールをお貼りになってお送りください。

●実施期間
昭和53年2月1日～5月31日（応募締切）

●当選発表
昭和53年6月15日 雑誌〝バドミントン界〟誌上と各参加店の店頭。なお、プレゼント商品はおもとめになったお店を通してお渡しいたします。



①**バッグA（100点）**
ラケット、ウエアなどが専用に納まる特製バッグ。
（※写真のうち、ラケット、ウエア、アクセサリーなどは含みません。）




②**バッグB（500点）**
一流プレイヤーのサイン入り。




③**バドミントン・ポット（500個）**
シャトルコックスタイルのシャレたポット。

④**ラケットB-9100（300本）**
サイン入り。
⑤**ウォームアップ（100セット）**
いま、断然人気のNo.118型特製。
⑥**タオル（500本）**
特大のスペシャルタオルです。

⑦**ラケットケース（3,000枚）**
特製サイン入り。
⑧**ガット（5,000張）**
ヨネックス高級ガット。

YONEX®